

Adult only  
R18

# 大規模 唯ちゃん 首乳 いじめるわだん びん びん



ごじやるん / やのかけ / ヤマグチ / お肉 / いよ / 光子コ / しおこしょう / ゆにゆう  
三吉汐美 / 闇ケルちゃん / ゴロウタメ / マイク・0 / 02 / ビンスキー / ユニティコング  
ナシ・アジコ / ガサキ / むらいとよ / 廃屋カーネル / ハゲイコド / 大作



ねえねえ  
みんなはあ〜…

こんちや〜  
ゆいだよー♡

わきわき♡

わきわき♡

龍の爪って知ってる??

タイトル  
大作

餌

これねー…  
うひひっ♡  
ちよーきもち〜  
んだよ♡

知らない?  
じゃあじゃあ〜  
ゆいせんせーが  
教えてしんぜよー♡

ネーネーニ☆

さわっ♡

まずはちくびを  
親指と中指で  
ぎゅ〜って広げて…

余った人差し指で…  
カリカリカリカリ〜♡♡

あっは♡♡  
ヤバちよーびくびく  
してるう〜♡♡♡  
これいいっしょ♡

なんかあ手の形が  
龍の手っぽいから  
『龍の爪』って  
言うんだって〜  
ウケる〜!!

うひひっ♡  
ちくびきもちい♡  
ちくびきもちーね♡

カリカリカリ♡  
すりすりすり♡  
く〜く〜く〜♡♡

★みんなも自分の  
乳首のためにやろう!!

肩

なあんか  
かたいのあたって  
ますよ♡♡

…んんんん？

ちくび気持ちよくて  
おちんちんおつきく  
なっちやった？

おちんちんも  
さわってほしい？

れ

でも  
らめえー☆

今日はあ  
いーっぱいちくびで  
きもちい♡  
させちやうかんね♡

Let's Go!

Pちゃん乳首  
いじじされるの  
好きだったんだあ♪

ほら乳首いじられ  
ながら唯の中に  
びゅーって  
出しちゃえ☆

んっ！  
んん〜♡  
いっっぱい  
出てるう〜♪

け〜ど？  
もっと出るっしょ？  
ほらほらあ〜♡  
んん〜やっぱりまた  
おっきくなんじゃん♪

今日は  
寝かさないぞ〜♡

んふふ〜  
女の子みたいな声  
出してかわい〜♪

そんな〜っ!

ちんちんに刺激を与えず  
射精しないと/させないと  
出られない部屋  
作・やのかけ



ああ〜っ…ショートデニム  
顔面騎乗最高…  
これで窒息死してもいいわ…



あゝ...?  
唯ちゃんもちよっと  
興奮してない?  
ほんのりえっちな匂い  
してきたが...?

おっ  
ちよん

プロデューサーちゃん  
ったら...♡もっ♡

ゆいも盛り上がって  
きちやったかも...♡

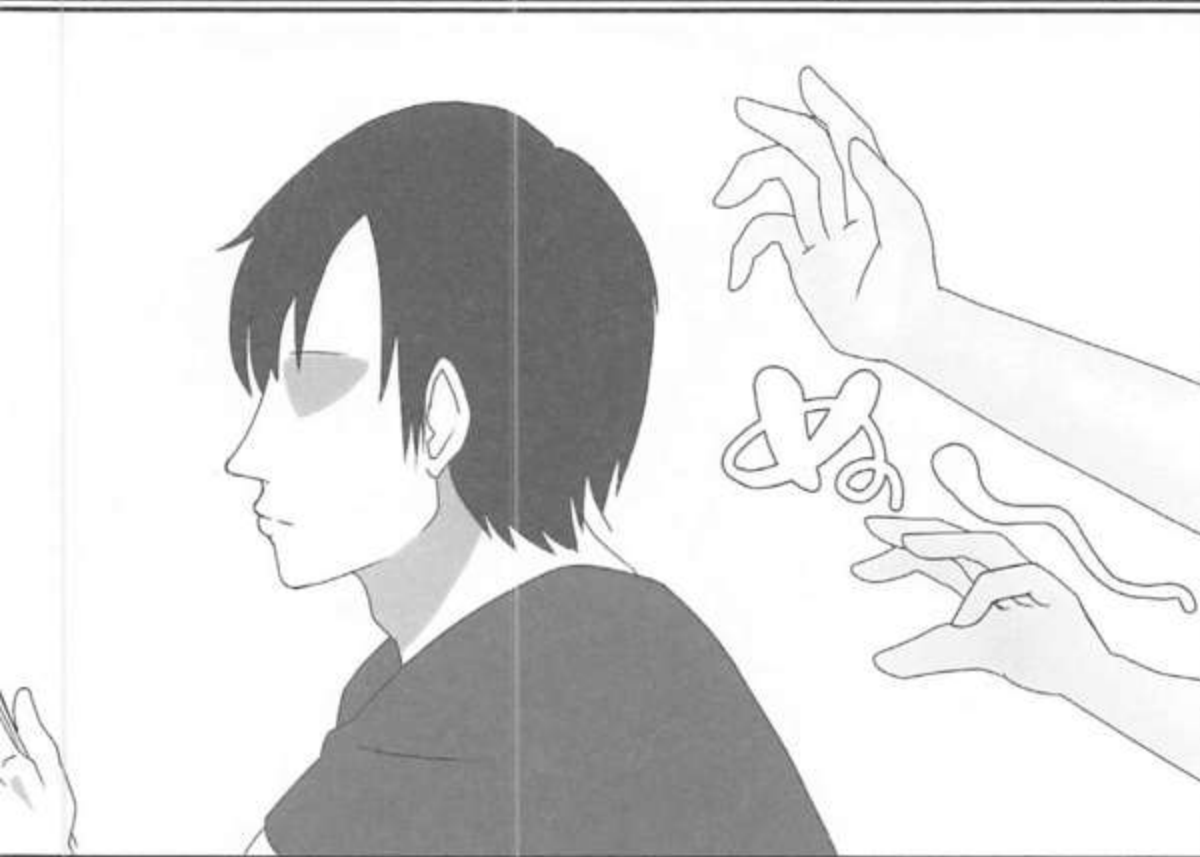
はーん  
どうっこのまま  
1回シちゃったり...  
はーん

本番行為は  
認められていません

そんな〜っ

おわる。







プロデューサーちゃん  
ゆいとえっち  
しないのおろろ・・・？

いやそりゃ  
したいけど  
これだけやっ  
たくってさ・・・  
ブルブルやめて



んがッ

プロデューサーちゃん



耳フス♡とか  
だったらいな

耳フス♡とかだと  
思ってるだろう



ふろろろん・・・  
プロデューサーちゃん  
そこまて言うなら  
ゆいも手段を  
選ばませんなあ・・・

何するつもりか  
分かんないけど  
お手柔らかに  
頼むよ



えろろ♡

コレは  
くすぐったがりさんの  
声なのかな？♡



ゆ、唯ちゃんッ!!

あはははっ  
プロデューサーちゃん  
へんを声くっちゃん

もろ俺  
くすぐったがりって  
知ってるでしょ!?



どろろ♡♡♡

オッホ!?



こんな事されて  
仕事なんぞ  
出らんぞ  
ツッ来るて



スーッ  
スーッ  
スーッ  
スーッ

スーッ♡  
スーッ♡  
スーッ♡



プロデューサーちゃん  
やっつとコツチ  
向いてくれたあ♡

よく考えたら  
明日も休みだし  
こんなエッチで  
可愛いわ  
放った理由が

お風呂入ってる間も  
惜しいんだけど  
もう先に一回  
始めちゃっても良い?



んふー♡



えッ!?  
ここにきて  
そんな梯子外し  
あんの!?  
ゴメンネ!

えッ!?  
プロデューサーちゃん  
さっしは仕事シゴト  
ゆいしおジャマ  
扱いたの?

うわっ！  
ソウゾウソウソウッ！  
てんじやん！

わっぷ

そんな慌てんなさ？  
ゆいだってえっち  
したいんだし♡

ぼふっ



あても  
さつきのプロデューサーちゃん  
チヨ一可愛かったから、ゆい  
思い付いたコトあんだけどね♡



コレは良からぬ事  
考えてる時の  
顔だ・・・!!

い、言ってごらん？



えとねえ♡  
そんじやん今から・・・

あ、ちくびだけしか  
くげはないっ♡



ちゅっ♡

ビクッ♡



あッあッあッ  
それヤバイヤバイ!!

○○○○...



ちゅっ♡

ええっ!? ゆ、唯ちゃん  
ソレは・・・あッ!?

ビクッ



あつは☆バレたり？  
プロデューサーちゃんの  
気持ちよささせたげよって  
思ってたのに

なんかゆいの方が  
メッチャこーぶん！

んっ♡触って♡  
一緒に乳首  
気持ちよしく  
なっちゃおうよ

わ、俺もおっぱい  
触って良いの？

乳首と同時に  
布越しの素股  
キク・・・ッ

ねっねっ  
プロデューサーちゃん  
手、貸してえ♡

唯ちゃんももうかなり  
勃起してるよね乳首

あ♡あ♡  
乳首同士でえっち  
するのヤバいね♡

女の子に乳首弄くられて  
おちんちんカッタカタに  
しちゃう♡  
プロデューサーちゃん♡

可愛い顔してる・・・  
うふ、大好きだよ♡♡♡

ほう、ゆいの乳首も  
キュ♡キュ♡って  
いっぱいシて♡

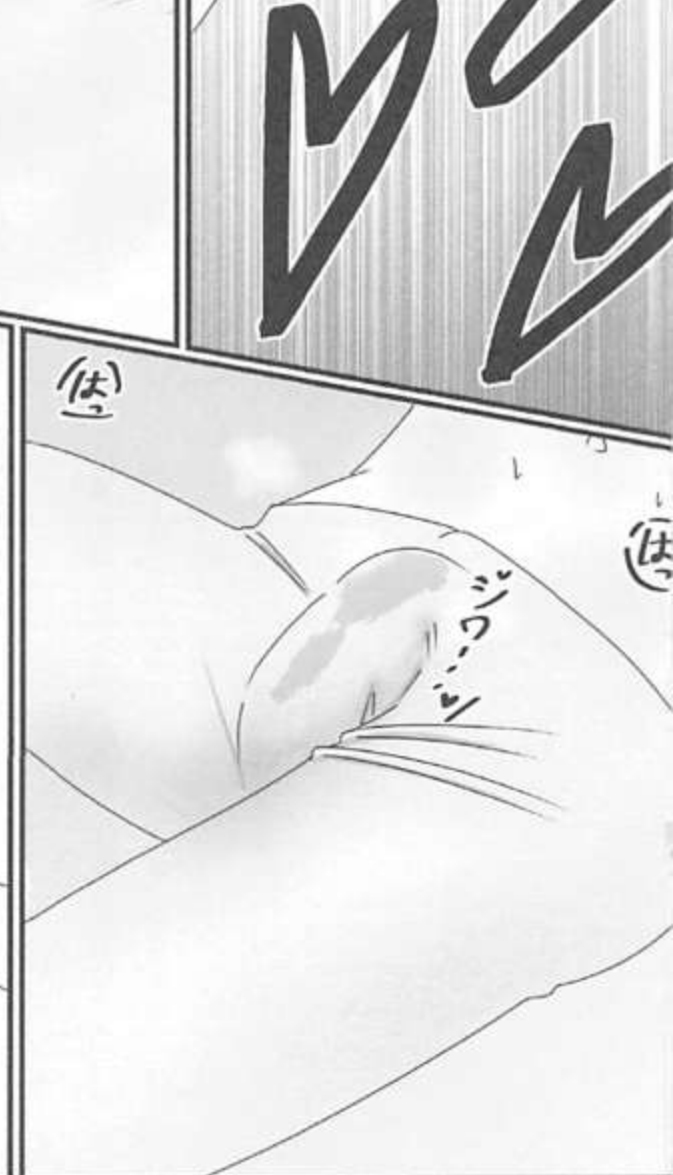
プロデューサーちゃんの  
一生懸命教えてっ♡♡

うん♡うんっ♡  
ゆいもいきそっ♡  
乳首いっぱい♡

っ・・・唯ちゃんッ  
俺ちよつともうッ

あ

14



プロデューサーちゃんっ♡

今度は一緒に  
お風呂入ろっか♡

ゆいっぱい  
汗かいたあ♡

……っはあ♡

「ねえねえ☆一緒にお風呂入ってもいい？」

あなたに軽い口調で語りかける少女は、風呂場の扉越し。

あなたは拒絶の言葉を口にす。今年からは中学生だ。クラスの男子達に聞いても、その年齢で姉と風呂に入る男は少ない。いつまでも子供扱いされたら困る——と。

滔々と述べた理屈の悉皆を無視して、彼女は扉を開ける。

既に服を脱いでいる。金髪がふわふわと靡いて——あなたは視線を逸らす。同級生女子には決して存在しない、身体の起伏。それは勿論、年齢という意味でもそうだが——彼女の乳と尻、ウエストのくびれは、高校生の彼女の年代でも滅多に存在しない最高の代物。

制服越しでも大きな乳房の谷間や、張りのある臀部の形が目立つような、極上の肢体を持った美少女。ふわふわした金髪を靡かせながら、同級生の男子と肩が触れあう距離でも、遠慮することはない少女。制服を脱いで水着に着替えれば、可愛らしい金髪ギャルは、途端に淫靡な雰囲気撒き散らす。規則という言葉で体言する「学校の制服」ですら興奮を隠しきれないのに——彼女が水着に着替えれば。あの極上の肢体——どこまでも指が埋まるようなふわふわな乳肉や、シミ一つなく丸みを帯びて、乳の柔らかさとは対照的に、指肉を押し返すような弾力で——しかし、指紋に付着した指の脂すら吸い突くようなもちもちの肌を晒されるのだ。彼女の同級生は、彼女と同じクラスに在籍したことを生涯の誇りとして、子々孫々に語り継ぐだろうし——その乳の柔らかさを一般男子に教えてくれる棟方愛海は、銅像を建てられて功績が後生まで残されるだろう。

そんな彼女——

人気トップアイドルの大槻唯は、あなたの義姉だ。

日本中で年十数万件は起きている「親の再婚により兄弟姉妹が増える」という現象。あなたにとってそれは、緊張を湛えても拒絶を招かないもの。親には親の人生があり、親同士で互いに好意

的な存在であれば——子供は所詮部外者で、口を挟む権利なんてないのだが——

「ほらほらっ……ちゃんと身体洗わないとだめだぞ〜♡」

義姉が大槻唯になるならば、あなたは全力で断っていた。

ギャルアイドルとして城ヶ崎美嘉、所恵美、和泉愛依らと共に、人気トップクラスに君臨している現役アイドル。彼女の名前を知らない学生は、あなたの学校には一人もいないと断言してもいい。天真爛漫で距離感が近く、彼女と話したこともない男子がガチ恋勢に陥るほどの極上の美少女。彼女のイメージビデオは予約解禁されると同時に、ネット通販のランキング一位に躍り出るし——テレビCMや動画サイトの広告で、彼女の顔を見ない日はないほどだ。

そんな大槻唯が、あなたの義姉で——

今は互いに全裸で風呂場にいるのだ。

「んふふっ☆身体、おつきくなったね……初めてあったときは、パパの後ろに隠れて怯えていたのに……そっかあ……中学生になったんだよね……♡」

感慨を込めた言葉をあなたに告げて、唯はあなたの髪を洗う。

高級ソープに六桁の金額を支払っても、たった一つ、「唯に髪を洗ってもらおう」ことすら、一般人には死ぬまで実現不可能な夢なのだ。それをあなたは、ただ、唯が義姉というだけで実現させている事実。「でも、耳の後ろはちゃんと洗えてないよっ……☆」と唯は、あなたの耳に顔を寄せて囁き——「お風呂場で全裸の大槻唯に髪を洗ってもらいながら耳元で「身体を上手に洗えてないよ」と囁かれる」それは、音声作品をどれだけ束に重ねても勝てない代物。

唯はあなたの髪を、わしゃわしゃと洗う。

乱暴だが乱雑ではない。唯が全国一億人を虜にしたCMが、未だに流れている、彼女自身がプロデュースしたシャンプー。柔らかな花の匂いは唯にこそ似合うが——男子中学生のあなたには相応しくない。ただでさえ唯が義姉というだけで羨望と嫉妬の視線を向けられるのに——髪にその匂いを漂わせれば、彼らからのからかいが留

まるところを知らないだろう。

あなたは、目を瞑りながら——天国と地獄の両方を耐えて、時間の経過を待っているが——

「ねっ……告白されたってほんと？」

きゅっ♡と——

唯はあなたの乳首を抓る。

ぞくぞくと背筋に電流が走るが——唯はそれを狙っているのだろう。あなたの乳首を抓り、指の腹で乱暴にくりくりと弄ぶ。抵抗しようとしても、頭にはシャンプーが乗っていて目も開けられず——なにより、大槻唯に背後から乳首を抓られて「逃げよう」という発想は、雄であるあなたの肉体からは欠片も浮かばない。

「ゆい、ショックだな☆おとーとくんは……お姉ちゃんのものだと想っていたのに……お嘉ちゃんに告白されて鼻の下伸ばしてたって聞いたよ……？ねっ……お姉ちゃんのこと捨てちゃうの……？泣き叫ぶゆいの処女奪ったの、おとーとくんなのに……♡ゆいのこと、ポイ捨てしちゃうの……？ヤリチンくんっ☆」

唯は背後からあなたの乳首を責めて、耳を舐める。

何度も、何度も——義姉に初めて乳首を触られた日から、たっぷりとその快楽を受けてきた。「男の子の乳首は女の子になり損ねた証拠で、母乳も出せないのに気持ちいいのを食べるだけの場所」だと言われながら、年上の義姉の——金髪ギャルのトップアイドルに心をぐずぐずに蕩かされてきたのだ。あなたは抵抗できず、ただ、唯の耳舐めと乳首責めを耐えるばかり。

「ねっ、ねっ？お嘉ちゃんと付き合っちゃうの？ゆいのこと、捨てちゃうの？やだやだっ♡ゆい、捨てられるのやだなあ……♡大好きなおとーとくんが……他の女の子のお婿さんになるなんて……ゆいと結婚してくれるって、昔、約束したのに……ねっ……浮気性のおとーとくんには……お仕置き、必要だよねっ……☆」

唯の気配は——あなたの正面に移動する。

彼女はシャワーを髪にあてて、泡を流す。  
あなたが目を開けると――

「ねっ……おとーとくんは、ゆいの裸好きだよね……？」

人気トップアイドル――大槻唯の全裸が、目の前にある。

アイドルとして活動する以上、ムダ毛の一本も存在することが許されない肢体。白く透き通るような肌と、お湯に濡れてぺたんこ張り付いた金髪。ともすれば、美術館に飾られるような芸術性と神秘性を多大に漂わせているのだが――

その感傷を阻害するのは、唯のすけべすぎる肢体だ。

大きく膨らんだ乳房はFカップ。ネットの匿名掲示板では「ゆいっばい」と称されるそれは、中に芯が詰まっていけないかのようになたぶたぶに柔らかいが――そのずっしりとした肉の重さを、掌で味わったことがあるのはあなただけ。手の上に乗せてゆさゆさと揺らすと、乳が波打って目の保養になる。彼女の大きな尻もまた、極上の雌のもの。尻の谷間が分厚く肉が密に詰まっているのだ。くそっ――邪魔だ、このデカケツ――と、ペニスを根本まで収めるためには、弾力性がある生意気な臀部を腰で思い切り打ちのめす必要がある――犬や猫のように四つん這いになりながらセックスするときは、あなたの雄としての凶暴性が、唯の淫靡な肢体で強制的に増幅させられるのだ。

そして、何より――

あなたの目の前には、唯の秘部がある。

クラスの男子が――日本中の男が――大槻唯を知っているすべての雄が、どうにか透視することは出来ないかと、血眼になって水着やスカートを見つめるそれが――

あなたの目の前には、ぼんと、本物が差し出されているのだ。

唯は、あなたの陰茎に秘部を押し当てて――濡れたそれが、くちゅっ♡と、蠱惑的な水音を奏でる。

乳首がカリカリと弄ばれて――あなたの陰茎は屹立している。

海綿体に血流が集中して、最大限に硬度が増した逸物に――ごちゅん♡と、唯は腰を落として、挿入する。

「んんん♡♡♡♡♡……おとーとくんのおちんちん……んっ♡♡♡♡、大きくなったね……♡

ゆいの処女を奪ったときは、もっと小さかったのに……♡雷がうるさい夜に……おとーとくんがゆいのベッドに入り込んできて……ゆいとぎゅゅ♡♡♡♡♡ながら寝てたら……寝ぼけたおとーとくんが、ゆいの乳首をちゅばちゅばちゅ吸って……♡『まだ子供だもんね♡ママと別れて寂しいよね♡』って……♡ゆいが同情しちゃったら……そのままたゆいのこと押し倒して、レイプしちゃったおとーとくん……♡

えっ？……ゆいのせいにすんの？

違うも〜ん☆ゆい、大好きなおとーとくんに逆レイプなんてしてないもん……♡彼女でもない女の子の乳首ちゅばちゅばしたらだめだよって……おとーとくんの乳首カリカリして……いっばい意地悪して……涎だらだらしているおとーとくに、舌を根本でくるくる絡めるペロキスしながら……すすすき♡おとーとくん大好き♡なんて……媚び媚びおねだりなんかしてないのに……♡ひど♡いっ♡おとーとくんは……♡ゆいをレイプするだけじゃなくて……♡ゆいにレイプされたことにしたいなんて……卑怯な男の子だなあ……♡

パンパンと結合部で響く水音が、風呂場に反響していく。

ゆいはあなたの耳をれるれろと、唾液がたっぷりとまぶされた舌でねぶりながら――乳首を弄び続ける。唯への抵抗の一切を阻害するように――雄の心を丹念に折る彼女の乳首責め。クラスの女子に告白されたことへの怒りを込めたそれは――普段の、愛情たっぷりにからかうものではなく、あなたを搾り取るための手つきだ。

唯のにゆるにゆるの膣ひだが、あなたの陰茎に絡みつく。トップアイドルというのは、極上の雌である証拠。生物の本懐が種の繁栄であるならば、世界中の男を虜にして、誰でも、優秀な遺伝子を持った雄を選べるトップアイドルは、繁殖において最上級の雌であり――そんな唯の膣は極上のものであるのが必然で――

そんな唯が、世界中の男から、義弟のあなたを選んでという事実。

唯の乳房では二つの肉饅頭がたぶたと揺れていて――あなたは、反射的にそれに手を伸ばす。彼女の乳房の先端にも、あなたと同じ乳首はついているのだが――唯から受ける乳首責めとは裏腹に、彼女の乳首を責めても、甘い吐息を漏らすばかりで喘いだりすることはない。それでも――と、あなたは唯の乳首をカリカリと責めながら、乳のどっぷりとした重さを堪能して、唯の腰の動きにあわせてピストンをする――それが献身的な義弟の愛情であると、彼女は捉えたのだろう。

「ねっ……ゆい、あぶない日だけど……どうするっ♡」

と、彼女はあなたの耳元で囁き――あなたの首筋にキスをする。

どんな返答をしたのかは定かではない。確か「告白は断る」や「責任はとる」と告げたつもりだが――あの、大槻唯に全裸で身体を洗ってもらいながら、乳首をカリカリと責められて、対面座位でねっぷりと舌を絡め合わせながら、避妊具なしの、危険日生セックスをしているのだ。あなたの理性は全て、野生の本能の熱で蒸発して――目の前の極上の雌を孕ませるのだと、そればかり。股間から突き出した十センチの器官の快楽が全てに優先されて、あなたは唯の、全身ふかふかで柔らかい身体を採みしだきながら、乳首をちゅばちゅばと吸って――幼子のように情けない姿に――

なでなでっ――♡

と、唯はあなたの頭を優しく撫でて、受け入れるので――

びゅーっ♡びゅるるるっ♡びゅくっ♡どぶっ♡どびゅっ♡

あなたは、射精した。

義姉のにゆるにゆるの膣内へと、避妊具を介在することがない――夫婦が本気で「子供を作りたい」と思っているときにだけ許される――種付けセックス。唯の膣はきゅうきゅうとあなたの陰茎を根本から締め上げて、あなたの射精を催促する。情けない顔で、唇の



端から唾液を垂らして、射精の快楽に浸るあなたの表情を——唯は、少しも目を逸らさずに見つめ続ける。自分の全てが捕食されるような体勢だが——蛇に丸飲みにされて溶かされるような心地よさがある。唯は腰を浮かせて、あなたの陰茎を引き抜くと——彼女の膣からはとぼとぼと、愛液と精液がブレンドされた、白濁のカクテルがこぼれ落ちてくる。唯はそれを自身の指先で拭いとってから——まるで、あなたを興奮させる媚薬を扱うように、あなたの乳首へと塗りたくってくる。先ほどよりも潤滑性が増した、唯の乱暴な乳首責め。耐えられる男がいるはずはなく、前立腺を直接指で虐められるよりも簡単に、あなたの陰茎は屹立して——唯は慈しむように、小さなお手の掌で、あなたの龟头を撫で撫でと褒めるように愛撫した。

作 マイク・O

乳大  
目規  
唯  
ちゃん  
に  
パン  
びん  
!!







Pちゃん♡♡

Pちゃん♡♡

Pちゃん♡♡

Pちゃん♡♡

疲れたときは  
いつでも言っ  
てね



ちゃんとし3週間  
オナ禁できて  
えらいねっ♡

かわいい!  
きもちい!

ゆいちく!  
おらいとよ



我慢してたから...  
早くッ...もう  
苦しくて...

まあまあ  
あせんな  
あせんな♡



今日は

今日はめいっぱい  
きもちよく  
してあげる♡



めいっぱい





プロデューサーちゃんの  
必死でせつない顔  
ずう〜と見てたから♡

くび気持ちよく  
ってきちやっただ♡

「A-FIND...」

ゆいもちくびきもちよく  
なりたくなっちゃった♡

ちくび♡

唯ちゃ...  
だめ...

ちくびにあわせて  
おちんちんびくって  
してるくせに♡



やば♡これ  
きもちーね...♡

ゆいのちくびで  
プロデューサーちゃんの  
ちくび♡食べちゃった

ちくびで  
キス...♡

すっごく  
コーファンする...♡

モチイイけど...

射精まで  
いけなくて  
もどかじすぎる...

ゆっ ♡  
唯ちゃん  
唯ちゃん  
おねがい  
おちんちん  
射精させて

ハッハッ

アハハ

勝手なコト  
したら

だめ  
でしょ? ♡

あッあ

うそ  
だめッ

お願いッ  
イきたいッ

ごらっ!

あっ





ぎゃっ!?

うわっ...♡

プロデューサーちゃん...  
射精しちゃったんだっ♡

女は  
効果絶大  
じゃんっ♡

ゆい...これ  
ハマっちゃうかも♡  
ちくびいぢめ♡

★才能開花!!



りーなくん♪

ゆ、唯おねえちゃん  
なにをするの？

それはねえ  
りーなくんの  
だあいすきな

りーなくん♂

VS

ゆいちく

作:ヤマグチ

ロックな  
ことだよ♪

男の子もね  
おっぱいで気持ちよくなれるんだって  
ね、試してみよーよ

それが  
ロックなこと？  
う、うそ…

男の子なのに  
お胸で気持ちよくなれたら  
絶対ロックだよ♪

唯ね  
りーなくんなら  
イケると思うんだ





「ふんふんふん」

ゴキゲンなメロディを口ずさみながら、大槻唯はとあるアパートの階段を軽やかな足取りで登っていた。とつ、とつ、と一定間隔で鳴る足音が、アップテンポな鼻歌のリズムに乗って建物に反響する。

「ふんふん、ふん」

二階を通過して、更に上へ。その表情は、まるで愛しのボーイフレンドに会いに行く乙女ながらに緩み、彼女がいかにこれからのことを愉しみに思っているかを物語る。階段を一段ずつ踏みしめると共に、サビに突入した鼻歌の調子もだんだんと高揚していった。

踊り場で手すりを支点にして華麗に折り返し、その先の十段を五歩で上り切る。辿り着いた廊下を右に少し進めば、目的の部屋はすぐそこだ。

「んっんっ」

『大槻』ではない表札の文字を一瞥した彼女は、ポケットから取り出した鍵で、その一室の扉を当たり前に開錠した。

「ただいまー！」

唯が元氣よく挨拶するものの、彼女に答える声はない。しかし、唯はそれを取り立てて気にする素振りもなく、相変わらずの笑顔のままスニーカーを脱ぐと、それを男物の革靴の隣に丁寧に並べ置いた。

「ふんふん」

鼻歌が再開する。唯は踵を返し、薄暗い廊下へと踏み出した。数メートル進んだ先には、リビングルームへと繋がる扉が鎮座している。そのドアノブに手をかけると、彼女は一瞬だけ声を潜めて中の様子を伺うような素振りを見せた。

扉にはめ込まれた磨りガラスは斜陽に赤く染まり、室内の明かりが灯されていないことを示唆している。それでは、ここには誰もいないのかというと、どうもそうではないらしい。

「……」

唯が耳をそばだてると、扉の向こうから微かな声と、そして『ふうふうん』という低い駆動音が漏れ出てきた。その声は苦悶に喘ぐような、咽び泣くような調子で、廊下に佇む唯に何かを訴えかけているように聞こえた。

ともすればホラーじみた展開だが、唯は臆するどころか口元の笑みを更に広げ、躊躇なくドアを開け放ってリビングルームに足を踏み入れた。

「Pちゃん、ただいまー！」

彼女の呼びかけに、しかし『Pちゃん』なる人物からの返答はない。代わりに返ってきたのは、

「んっ……んっ、ん……」

という、力のないうめき声だけだった。唯が、声の方向に目をやる。廊下からも聞こえた声を発するのは、ベッドの上に横たわる細身の人影だ。ちようど夕闇の影に隠れつつあるその人物をしかと確認すべく、唯は壁のスイッチを後ろ手に押した。室内灯が眩く点灯し、

『Pちゃん』の姿が彼女の目に飛び込んでくる。

「……」

それを目の当たりにした唯の口角が、サディスティックに歪んだ。

「Pちゃん」

鞆を無造作にソファへ放り投げ、彼女はベッドの傍に早足で移動する。名前を呼ばれた『Pちゃん』——すなわち唯のプロデューサーは、ベッドの上で弱々しく面を上げると、唯の方へと顔を向けた。もつとも、彼の目は桃色のアイマスクに覆われているために、唯の姿を捉えることは叶わないのだが。

「ちゃんといい子にしてた？」

唯の質問に、プロデューサーはこくこくと首を縦に振った。そのあまりの必死さに愉悦を覚えつつ、唯は舐めるような視線を彼の全身に滑らせる。

まず彼女の目を引いたのは、なんとと言っても彼の身にまとう衣服

——薄桃色のオフショルダーのニットと、それに合わせた膝下丈の清楚なスカートだ。当然、本来なら男性が身につける代物ではないが、そのコーデイネートはプロデューサーの中性的な面立ちや華奢な体つきによくマッチしていた。

さて、そんな格好をした彼が、果たしてベッドで何をしていたのか——否、何をされていたのかということは、彼の有様が判然と物語っていた。

手首を頭上で縛られたことにより、ホールドアップを余儀なくされた腕。アイマスクとボールギャグをはめられて、見ることに話すことを封じられた顔。足枷と棒を組み合わせた特殊な器具によって強制的にM字開脚させられ、あらゆる姿勢を晒す下半身。まかり間違ってもものんびり唯の帰りを待っていた、というわけではないだろう。

そして、彼を辱め悶絶させているのは、何もその格好ばかりではなかった。ニットがはだけて露わになった彼の右胸には微振動するピンクローターが貼り付けられ、そして下着を剥がされてスカートの中で丸出しになった不浄の穴にはうねうねと蠢くパイプを挿入され、プロデューサーは肉体的な恥辱と快感にも晒されていたのだ。

「何回いったの？」

彼をそんな状態に陥れた元凶の少女が、涙に濡れたアイマスクを外してやりながら無邪気な声で尋ねる。プロデューサーは少しの間まぶしように眉をひそめたが、すぐに潤んだ瞳を唯に向けて、ふるふる数度首を横に振った。

「あはっ、やっぱりイケなかったんだ♡」

続いて、唯は唾液まみれのボールギャグも取り外す。

「っ、ゆ……ゆい！ おねがい、イかせて……イかせてえ！」

発言権を得るや否や、プロデューサーはうまく回らない舌で懇願の叫びを上げた。それもそのはず、唯が今日の昼頃に出かけてから今しがた帰ってくるまで、彼は何時間にも渡ってこの安っぽい玩具

たちの焦らし責めを受け続けたのだ。

「んー、どうしょよっかなー♡」

わざと意地悪な物言いをしつつも、唯は医療用テープで止められたローターを手早く取り去る。長時間の責め苦に耐え続けたプロデューサーの乳首は、唯に触ってもらいたいとばかりにぶつくりと膨れ上がり、必死の自己主張をしていた。

「おね……っ、おねがい……!」

粘っこい唾を飲み込みながら、プロデューサーは唯の慈悲を乞う。そんな恥も外聞も捨て去った哀れな姿に、唯の嗜虐心がゾクゾクと打ち震えた。

「はぁ……Pちゃんはほんとにしようがないなあ」

わざとらしく溜め息をついてから、唯は先程放り投げた鞭を手繰り寄せ、中から小さな箱を取り出した。

「じゃーん！ これ、よさげだったから買ってみたんだー!」

大仰な身振りでそれを誇示する唯。プロデューサーは涙に霞む目を凝らした。

「指……歯ブラシ……?」

「そー!」

あまり馴染みのない名称に戸惑うプロデューサーを尻目に、唯は箱のミシン目を裂き、中からそのグッズを取り出す。「指歯ブラシ」との名が示す通り、どうやらそれは指にはめて使うタイプの歯ブラシのようで、指サックの一部に無数のシリコン製の突起が生えているという見た目をしていた。

無論、唯にはこれを使って歯磨きをしようなどという算段は毛頭ない。彼女はプロデューサーの眼前で、見せつけるようにしてそのブラシ部分を指でなぞりあげた。

「このつつぶつぶにローションをたっぷり絡めて、Pちゃんのちくびをすりすりしてあげたら、Pちゃんどうなっちゃうかな〜?♡」

「っ……!」

デューサーは息を荒くして、甘美な想像にこくりと喉を鳴らした。

「んふふ♡」

不敵な含み笑いを漏らした唯が、指歯ブラシを左の人差し指にはめ込む。室内灯の明かりを受けて鈍い光沢を放つそれは、二人にとってはもはや衛生用品ではなく性具であった。そのブラシ部分に唯の唾液が垂らされると、透明な粘液が凹凸の隙間にゆっくりと染み込んでいった。

「ねえねえ、これすっこい気持ちよさそうじゃない?♡」

唯の問いかけに、プロデューサーは今にも泣きそうな顔でこくこくと何度も頷く。これ以上焦らされてはもう堪らないと、彼の矜持は唯の従順なメス犬に成り下がる。

唯は満足げに目を細め、蜜をまとった突起の群れをプロデューサーの右胸の先にあてがった。

「あっ……♡」

たったそれだけのことで、甘美な刺激がプロデューサーの脳内をびりびりと痺れさす。触れられるだけでこれほど気持ちいいのなら、もしそれを動かされたりしたら、一体どれほどの快感が訪れるのだろうか――

半ば無意識に、彼は背を反らして唯に向かって大きく胸を突き出す姿勢を取った。

「いくよ〜?」

宣言する唯の声にもまた、隠しきれぬ期待が込められていた。直後、ブラシをはめた彼女の指が数センチほど下に滑る。

「つつつつ~~~~~~~~!?♡♡♡」

そうして与えられた快感はプロデューサーの想定を遙かに凌駕し、彼は声ならぬ嬌声を上げながら、いともたやすく絶頂を迎えた。とはいっても、縮こまったままのペニスの先から精液の放出はない。

「おろ、Pちゃんもしかしてもう女の子イキしちゃった?」

女の子イキ――すなわち、ドライオーガズム。外見や内面のみならず、プロデューサーはもはや性的な面においても唯の手によって

メス化させられていたのだ。

呆けた調子で尋ねながらも、唯は指先を上下に往復させ、絶え間なく快感を供給し続ける。

「つつっ♡♡♡ ゆ、あ……つつっ♡♡♡」

放置プレイによって溜まりに溜まった何時間分もの快感が弾け、あまつさえ休む間もなく責められ続けたともなれば、プロデューサーの表情が苦しげに歪むのも無理はなかった。

「どうしたの? イきたかったんでしょ? ほらほら、ゆいがいっばいすりすりしてあげるから、何回でもイっていいんだよ?♡」

「ひっ……っ、ああつつつつ♡♡♡」

一擦りごとに、プロデューサーの身体が大きく痙攣する。絶頂が絶頂を呼び、その連鎖は既に彼自身の意思でどうにかなるものではなかった。すなわち、彼にできることは、

「ゆい、やめ……っ♡♡♡ やめてえっ♡♡♡♡♡」

と女々しくも哀願することだけだった。もつとも、彼のそんな姿は唯の嗜虐心をいたずらに逆撫でし、彼女を余計に滾らせる結果になってしまっただが。

(Pちゃんかわいい♡ もっといじわるしたい♡)

すっかり目にハートを浮かべた唯は、下腹部から湧き上がる衝動のままに熱心な乳首責めを継続する。

「つつ、ひいっ……うぐつつ、つつ♡♡♡ ふうっ……っ、ひっく……」

かくして絶頂拷問を受けること数分。プロデューサーの喘ぎ声に嗚咽が混ざり始めたところで、ようやく唯はハッと我に返った。

「あっ! ご、ごめんPちゃん! さすがにちょっとやりすぎちゃったかも……!」

さしもの彼女も、可愛いペットが過呼吸とマジ泣きに溺れかけているとあっては、それ以上責め続けることはできなかった。いつもの調子に戻った唯は、慌ててプロデューサーの頭をぎゅっと胸に抱く。

「ごめんね、Pちゃんがかわいすぎて、つい……」

唯の弁解の言葉に、プロデューサーは「ん……」と返答とも呻きともつかない声を漏らした。しばし、唯はあやすように優しい手付きで彼の頬や顎をさする。

「Pちゃん、ゆいのこと許してくれる……?」

唯がそう尋ねると、プロデューサーは涙で濡れた頬を唯の胸に押し付けながら、小さく頷いた。

「やったー! Pちゃん大好き!」

途端に明るさを取り戻す唯。実に現金な態度だが、彼女らしいと言えば彼女らしい。ひとしきりプロデューサーに頬ずりしたり彼の髪を撫でたりしたのち、唯は再び彼の頭を枕の上に横たえた。

やっとこれで解放される——プロデューサーが小さく嘆息する。ところが、彼の拘束を解いてくれるだろうと彼が想定していた唯の手は、なぜだかまたもや彼の胸板の上に置かれていた。

「じゃあPちゃん、」

困惑するプロデューサーにむかって、唯は口を開く。

「次はもっと優しくしてあげるから、ね?♡」

『次』——それが『次の機会』を意味しているわけではないことは、唯の指先のブラシが再度プロデューサーの右の乳頭にあてがわれたことから明らかだった。プロデューサーは、先の拷問を思い出して身体をこわばらせた。

「そんなに緊張しなくても大丈夫だよ! ゆい、ちゃんんと反省してるから」

その声音は、確かに数分前よりも幾分か和らいでいるように見える。そしてその言葉通り、唯は以前よりも丁寧な、突起の一つ一つをプロデューサーに味わわせるようにして、ブラシを彼の性感帯に這わせた。

「ふあ……♡」

甘い、甘い快楽。どうやら唯の言葉に嘘偽りがないことは、その手付きですぐに分かった。

「Pちゃん、蕩けそうな顔してる♡ こうやって、ゆーっくりされるのが好きなんだ♡」

プロデューサーの緩みきったメス顔が、こくこくと何度か縦に動く。

「そっか、じゃあずっとこうやっていい子いい子してあげるね♡ Pちゃんのちくび、いい子いい子♡」

「ん、ん……♡」

プロデューサーがもそもそと身悶えした。それは快楽によるものであったが、同時にわずかばかりの物足りなさもまた、その切なげな声色に孕んでいた。

もちろん、唯は耳ざとくそれに気がつく。

「どうしたの? 右のちくびばかり気持ちよくされてたら、左の方が寂しくなってきたよ?♡」

「う、うん……」

唯が目線を落とすと、プロデューサーの左胸の先はぶつくりと膨れ、唯に触れてもらえるのを今か今かと待ちわびていた。それをどうしてやろうかと彼女は一瞬だけ思案したが、すぐに本能に従うことを選択した。

「それじゃあ……」

じゅるり、と唯が舌なめずりをする。

「いただきます♡」

言い放つや否や、彼女は美味しそうに熟れた果実にむしゃぶりついた。唾液を絡めた舌が、たちまちのうちに獲物を捕捉する。

「あ、つつ……んうう……♡」

「ほう? ひもひいい?♡」

「んう、ん……♡」

唯が上目遣いで尋ねると、プロデューサーは幸せそうに喉を鳴らした。最初の苦しいばかりの快楽とは異なる、穏やかに痺れるような感覚。それをもっと与えてやろうと、唯は舌先で乳首をくりくり

と転がした。

「うあぁ♡」

ほどよくざらついた舌の表面が、プロデューサーの気持ちいいところを惜しみなく舐めあげる。更に唯の攻撃はそれだけに留まらず、唾液を塗り込めるようにねっとり這わせ、かと思えば前歯で柔く甘噛みをして刺激を与え、ちゅうちゅうと吸い上げ、多彩な責めでもって彼を悦ばせた。

「あっ、んん……♡、あぁ♡」

次第に、プロデューサーの声から余裕が失われていく。腰がしきりにくねるのは、彼が着実に上り詰めている証左だった。そんな反応を受けて、唯の責めにもより一層激しさを増す。

「んっ、ちゅ……れろ、あむっ……んふふ、Pちゃんすっごい幸せそう♡」

「ふう……♡、ああ、っんん♡」  
「女の子みたいにあっちな声、いっぱい出ちゃってるね♡ ゆいに もっと聞かせて?♡」

鼻にかかった甘ったるい声色でそう言うと、唯は口での乳首いじめを再開した。しかも、今度は左手のブラシ責めも一緒だ。両の胸を同時に責め立てられ、プロデューサーの快感は絶頂に向けて加速度的に増幅していく。

「ほらほら、早く女の子イキしちゃお?♡」

あまつさえ、唯が時折耳元でそんな風に煽るものだから、プロデューサーがそう長く耐えられるはずもなかった。

「うあ、いっ……いっ……♡」

か細く裏返った声がプロデューサーの口を突く。彼のペニスはいくびくと震えながらよだれを垂らし、下腹部に透明な液溜まりを形成していた。限界までもう間もないことは唯の目にも明らかで、したがって唯はプロデューサーにとどめを刺すべく、一際熱のこもった舌遣いと指使いで彼の乳首をなぞりあげた。

刹那、甘やかな電流がプロデューサーの背筋を脳天に向かって駆け抜ける。

「っ、あああああっっっっっ♡♡♡♡」

甲高いよがり声を上げたプロデューサーの背が、弓なりに大きく反った。足のつま先までもがピンと張り、絶大な快楽を外へ逃がそうと試みる。

「っっあ……っっ♡♡♡ ふあああっっっっ♡♡♡♡」

「あはっ、またイっちゃったねPちゃん♡ すっかり女の子のイキ方覚えちゃったね♡」

意地悪く囁きつつ、唯はプロデューサーのオルガズムが長く続くようにと、優しく乳首を愛で続けた。それは最初の快楽責めに近い行動だが、その責めによって与えられる快楽は、幸福感という点においては一線を画していた。

「んんんっっ……っ、んううう♡♡♡♡」

脳が蕩けるほどの甘美な悦楽と多幸福感に浸り込むプロデューサーの身体が、次第に絶頂の緊張から余韻の弛緩へと解けていく。その様子を確認した唯は手を彼の胸から顔へと滑らせ、頬や額を穏やかに愛撫した。

「んっ、っ、ふう……っ♡♡♡ っっ、っ……♡♡」

「……どう、落ちて着いてきた？」

唯の柔和な言葉に答える代わりに、プロデューサーは大きく息をついて、震えの収まった肉体をマットレスに預ける。そのまま眠ってしまいそうなほど心地よい疲労感に沈んでいると、唯が彼の拘束具を手際よく外し始めた。手首のベルトと、足首の開脚棒。最後にアナルからパイプを抜いて、プロデューサーはしばらくぶりに自由の身となった。——もともと、だからといってその自由を謳歌し動き回る気力など、彼には残されていないかったが。

「Pちゃん、おねむっ」

「ん……」

唯が小首を傾げ、プロデューサーが浅く首肯する。

「じゃあ、このままゆいと一緒にちよつとだけ昼寝……夕寝？しよっか！ 起きたら夜ご飯食べよ☆」

乱れたプロデューサーの衣服を整えてから、唯は彼の隣に自

らの身体も横たえた。少女の温もりと香りとに安心感を覚えたプロデューサーは、程なくして穏やかな寝息を立て始める。

それを見届けた唯もまた、微笑みを湛えながら目を閉じた。

(さっきのPちゃん、かわいかったなあ……)

瞼の裏に蘇るプロデューサーの痴態が、彼女の頬をなおも緩ませる。日に日に彼女好みに調教されていく彼だったが、ああまで乱れてくれるようになったのは、実はわりあい最近のことだった。当初のうぶな反応もよかったが、やはり素直によがり喘ぐ姿を見るほうが、唯の性には合っていた。

(もうちよつと見てみたいなあ……次はどうやって……)

早くも、彼女はプロデューサーを辱める次なる策を練り出す。一方のプロデューサーは、隣に眠る唯がそんな不埒な考えを抱いているなどとは露知らず、ただただ深い眠りの中で愛しいご主人様の寵愛をたっぷりと受ける幸せな夢を見るのだった。

……なお、淫らなことを考えすぎたあまり再び悶々としてしまった唯が、辛抱たまらずに睡眠中のプロデューサーに襲いかかるのはこの数十分後の話である。

作 02

乳大規唯ちゃんにば!!





キャンディー好きなアイドルは  
乳首を舐めるのも巧い  
作・ピンスキー

キミがSNSで有名な  
ビッチな大槻唯ちゃんの  
コスプレしてる

いや、  
くん♡

かな？

大槻唯ちゃん

会いたかったよ♡

随分唯のコスプレで  
イタズラしてるみたいだね

by  
ゆい=ゆう

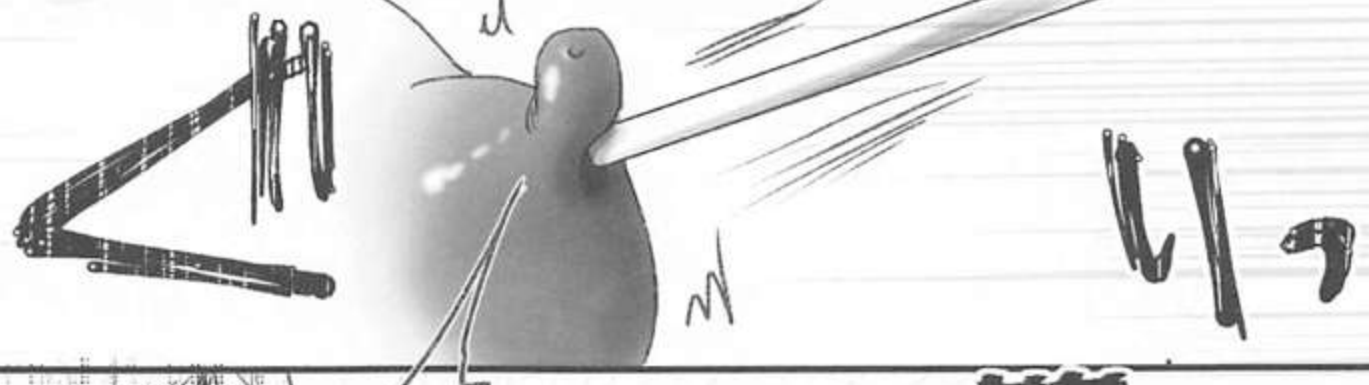
ゆっ  
唯ちゃん……

本物が……  
なんで

唯ねー

許せなかったんだあ  
唯を名乗るなら  
“唯らしく”なきや

ユイビッチくんは  
乳首よわよわ  
なんだよね？



唯ねえ

乳首  
感じないヒト  
なんだあ

だから

感じてちゃん？  
だめじゃん？

どうすんの〜？

こんなんで「唯」を名乗んの〜？

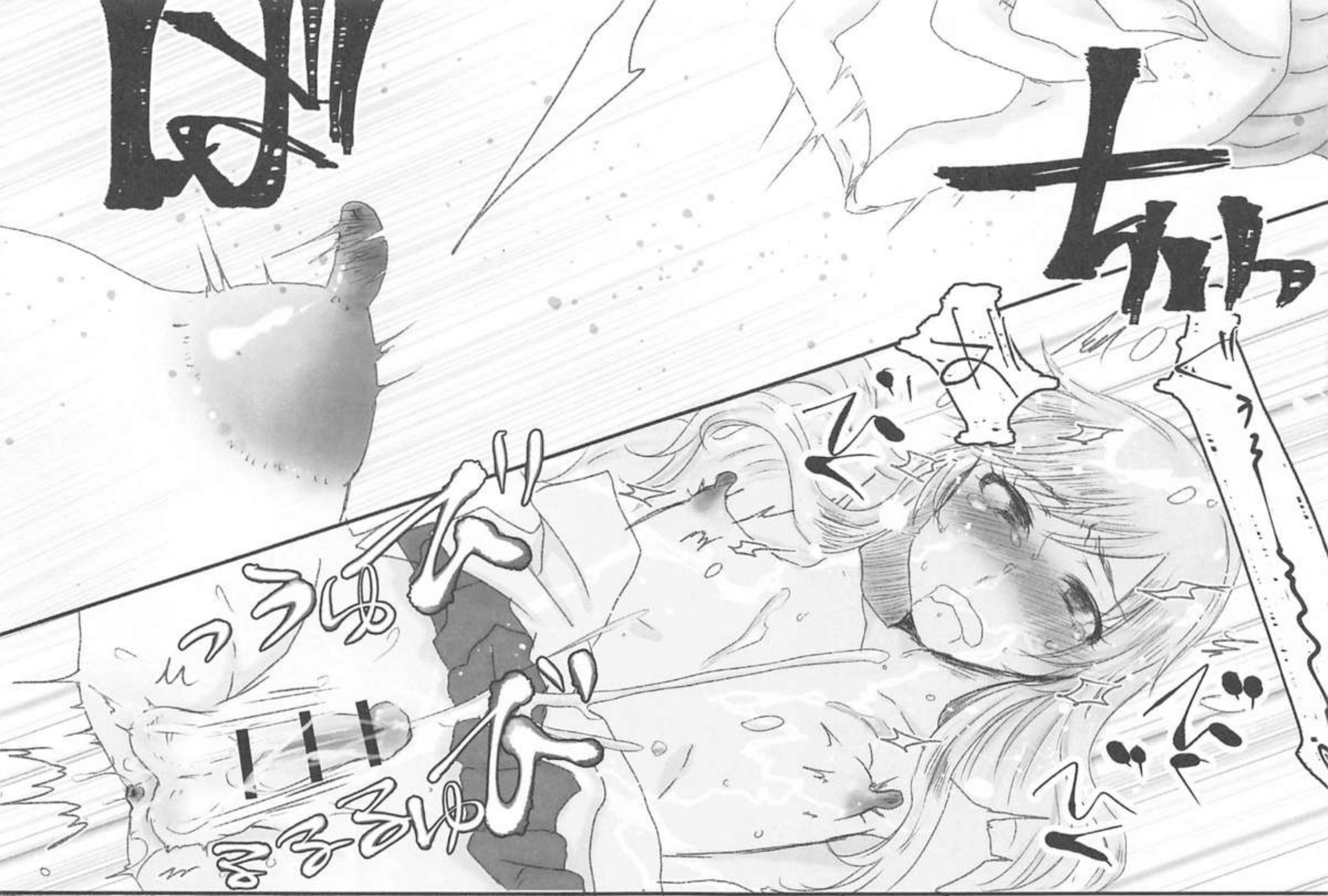
おとこのこのくせに

唯よりおっきいんじゃないの〜？この乳首

わ







何も感じなくなるまで

練習だね

“唯らしく”



“唯”失格だよコレじゃ……



あーあ

大槻唯ちゃんの すぐわかる！ すぐできる！ 乳首開発講座

……ということで、大槻唯直伝、男の人の乳首開発講座。はっじまるよー。

まずはみんな、乳首開発についてどう考えてる？

難しい？ よくわからない？ エロ漫画の見過ぎ？

ゆいもね、最初はそんな感じだったよ。でも、実際やってみたら、案外違ったんだ。丁寧に段階を踏んでやれば、意外と簡単だったよ。

んで、具体的にどうやったのか……気になるのは、そこだよ。順を追って話すよ。

まー、なんでもそうだけど、一番最初は「意識」だよ。

ということ、ゆいはまずプロデューサーちゃんに、乳首で気持ちよくなるってことをしっかり意識してもらおうと思った。

いきなりイジメても痛くてくすぐったくて、あんまり楽しくないだろうしね。そこは、男も女も変わらないはず……同じ乳首なんだから。

てことでまずは、しつこく触ったりはしないで、さりげなく

……二人一緒に気持ちよくなれそうところから始めてった。

一緒について言っても、エッチの途中でいきなり触るのもなんかガッツいてるみたいでおかしいよね。だからゆいは、それよりずっと前、並んで座ってキスとかしてるときに優しく触れるところから始めたんだ。

ベッドに座って、さあ今夜もするぞーっていう雰囲気するとき、どちらからともなくキスし始めて、そのままゆっくりなだれ込んでいくのがよくあるパターン。プロデューサーちゃんはゆいのこと一方的に押し倒したりはしないから、いつもこうしてじわじわーっと高め合う。

くっついてちゅちゅして身体を触り合っていると、何気ない感じで胸に触れに行くのは全然難しくもない。あっちも、ゆいの胸

にはいつでも興味シンシンで、エッチのときもいつつも優しく揉んでくれるから、ゆいの方から触りに行っても全然抵抗なんて無い。

最初は、さすがに少しくすぐったそうだったけど、「おっぱい触られてきもちいの？」「ゆいといっしょだね……♡」てな具合に、触りっこするだけでもどんどんその気になっちゃうから、すぐに馴染んでくれた。

指で触るだけじゃなくて、抱き合っているときにおっぱい押し付けたり、胸同士くっつけてみたり……ゆいが胸を触りに行くと、プロデューサーちゃんは笑っていたけれど、あれが単にくすぐったいだけの笑いじゃなくなるまで、ほとんど時間かからなかった。

もしかしたら素質があったのかもしれないし、相性が良かったのかも。

どっちにしてもゆいたちはラッキーだったよね。エッチして愛し合うなら、やっぱ、一方的なのはダメだもんね。

勝手に片方だけが楽しむんじゃ長続きしないよ。プロデューサーちゃんがゆいとエッチして楽しむのと同じくらい、ゆいだっているいろいろ試して遊びたいっ。

それにゆいと違って、男の人は一回出しちゃうとそれで一旦休憩挟まないといけなかったりもするし……片方だけがその気で、もう一方がダウン、なんてことになったら欲求フマンになっちゃう。おちんちんで射精する以外にも気持ちよくなれた方が、絶対にいい。

何度も繰り返しながら、ゆいはプロデューサーちゃんに乳首責めの気持ちよさを刷り込んでいった。

ある程度慣れてくれたかなーってころ、ゆいは次なる手を打った。

ゆいのおっぱいは、自分で言うのも何だけどかなり大きい。同年代の中ではトップクラスだと思う。プロデューサーちゃんももちろん、ゆいのおっぱいのこと大好きで、いつも目が離せないって感じ。だから、エッチ始めるときに、「今日はこの胸で挟んであげようかー」って言ったときには、絶対断られるはず無いって確信してた。

実際、この、胸でこするやつ……パイズリっていうんだよね、すごいエッチな名前だよ、考えた人きつと相当のおっぱいフェチだよね……プロデューサーちゃんにしてあげるの、初めてってわけ

じゃない。

ただ、ゆいにおっぱい使わせて自分だけ気持ちよくなるの、申し訳ないって思ってくれてるみたいで、あっちから「パイズリしてほしい」っておねだりしてくることは全然なかったんだよね。

そういう気遣いしてくれるのも素敵なところ。お礼に、もっともっと気持ちよくしてあげるからねー♪

で、普通に挟むところからはじめて……まずは左右からおっぱいを押しつけて、ぎゅーっ♡

軽く圧迫しただけでも、もう表情がとろとろ。こんな顔、他の娘には絶対見せらんない。

谷間にツバを垂らして、ぬっちゃぬっちゃって左右交互に動かしてみても、おっぱいの肉におちんちんが軽く埋まるのを感じる。

このまま挟んだまま、おっぱいだけで射精させてあげるのも、今のゆいならできる。挟むだけ挟んで射精するのは普通にセックスしておまんこの中に……ても、まああるといえはるんだけど、今日はやらない。

ベッドに寝た彼の脚の間に入って、ずっしりおっぱいを持ち上げては落とす。ハリがあるってことなのかな、あんまり強く挟まなくても、勝手におっぱいの重みでおちんちん擦ってるぽい。普段はぶるんぶるんして邪魔になったりもするけど、こういうときには役に立つんだ。

ずりーずりー……上半身を乗り出して、おっぱいの自重で竿を押しつぶすように刺激する。振り返ったおちんちんがベタつくのは気持ちいい証拠。軽く前後に動いてあげるだけでも竿がびくびくして谷間から逃げそう。でも、ぜーんぶゆいのおっぱいに包まれるから逃げ場なんて無いんだよね。

むにーと肉の変形するのがよく分かる。そつと胸から手を離してみる。まず右手、次に左手。締め付けが緩んでもおちんちんは谷間から飛び出さない。胸はちゃんとサオを捕まえていてくれる。できるかどうかあんまり自信なかったけど、手を使わなくてもパイズリできるんじゃない。やっぱゆい、すごいよね？ こんなのかなかできる娘いないよきつと。ブラしたままなら、もつとやりやすいのかな。

手で支えなくてもおちんちんしこしこできる巨乳にプロデューサーちゃんはもう夢中。手を使ってやったほうが多分刺激が強くていきやすいと思うんだけど、興奮が収まらなくて今にも射精しちゃいそう。喜んでもらえたら、頑張ったかいがあるよね。このままどんどんいっしょよー。

上半身を使って胸だけでおちんちん刺激しながら、両手を乳首の方へそっと伸ばす。二の腕で胸を挟むようにしながらプロデューサーちゃんの乳首を触りに行く。ぎゅっとシメて気持ちよくなってもらって、同時にプロデューサーちゃんの胸もクリクリと触る。パイズリに溺れてたのにいきなり胸を責められて驚いたかもしれないけど、抵抗はない。まあ当然だよ。ゆいがおっぱいで遊んであげてるんだもんねー。なんにもイヤなことなんてないよね。

上からのしかかっておっぱいで圧迫するような体勢だから、手を伸ばすのもそれほどきつくない。ちょうど手の届く範囲にプロデューサーちゃんの乳首があつて都合いい。ぐりぐりっ……と、ちよつと強めに揉んでみる。もしかしたら痛いかもしれないけど、痛いのも気持ちいいかな？

乳首いじられて気持ちよくなりながらパイズリされてたら、おちんちん、どっちの胸でイッたらいいのか混乱しちゃうかもね。胸を触られるのと胸でパイズリされるのと、全然別のはずなのに、こうして一緒にやってあげたらごっちゃになって、パイズリと同じくらい乳首責められるのも好きになっちゃうんじゃないかなーって……そんな都合よく行くかなあつて思うこともあつたけど、予想は大当たりだったみたい。

谷間の中のサオは、おっぱいでただ包んであげてるだけでも、乳首に優しく触れるだけでも、敏感になってピクピク震える。もちろんおっぱいも使ってあげるんだけど、やっぱり手を使わないと思うように動かしにくかったりもするから、どうしても指先の方を意識が行っちゃう。

もつと胸の方でしてくれてねだられたら従ってあげようと思つてただんだけど、それすら言わない。くりくりぐりぐり、ずーっと触ってるんだけど見た目にはまだ何も変わらない彼の胸。

おっぱいでおちんちん抱きしめながら胸を開発してあげて、そ

ろそろっばい雰囲気。先走りが漏れてサオの痙攣が目立ってきて、限界が近いのかも。ゆいはさりげなく、大きすぎない声で、プロデューサーちゃんに許しを与えてあげる。

気持ちいい？ ゆいのおっぱい、そんなにイイ？ パイズリ大好きだったんだねー。そんなに好きなら、このまま出していいよ。谷間にしゃせーしちゃえ。おっぱいでイっちゃえよ。

胸をイジられていくんじゃない、パイズリが気持ちいいからイっただよね……と、まあ、言い訳の余地だよ。

逃げ場を与えてあげれば、思ったとおり飛び込んでくる。まだ乳首開発されるのに少しは抵抗があるのかも。それでも、気持ちいいのは否定しきれないから、こうして「パイズリで射精した」って思わせてあげるんだ。

もう何も言わず、彼はただ無言で気持ちよくなる。おっぱいで刺激はかなり緩めてるんだけど、先走りはだらだら漏れて谷間を汚す。右の乳首を軽く捻つてあげると、すぐに精液が溢れた。

ドクンドクンと脈打つおちんちん。温かいザーメンが溢れて広がる。出してる間もずつと触りっぱなし、いじめっぱなし。押し殺した喘ぎ声にはわざと気づかないふりして胸を責め続ける。

動かしすぎて、そろそろおっぱいだけじゃおちんちんを捕まえてられない。肌の上でおっぱいがぬるんっ♡と滑ると熱い視線を感じる。

うわー、いっぱい出たね。みてよほら、ゆいのおっぱいベトベトー。糸引いちゃってさあ……こんなに出したんだあ。パイズリフェチなんだねっ♪

胸を開発していたことにはあえて触れないで、パイズリの話だけしておく。プロデューサーちゃんが、自分がどうやって気持ちよくなったのか、どこを刺激されて射精しちゃったのか、まだ気づかないように。

雫を滴らせながら、身体を起こす。汚れたおっぱいに目が釘付けになつてる。まだまだおちんちんは満足しきっていないみたい。

これからどうしよ、シャワーでも浴びる？ それともこのまま……

聞くまでもなかったみたいで、プロデューサーちゃんはまだまだやる気。でも、勢い任せに押し倒したりはしないで、おっぱいについた精液をティッシュで拭き取ってくれる。

こういう細かい心遣いが嬉しい……と言いたところだけど、ほんとのところ、ゆいはプロデューサーちゃんの乳首にずっと気を取られていて、次はどうやって遊んであげようかって、そんな事ばかり考えてた。

色々と手をかけてご奉仕してあげたかいて、プロデューサーちゃんもかなり乳首で遊ぶのに馴染んできた。でも、だからって焦っちゃダメだよ。いくらしたいことがあるからって、相手のこと考えずに先走っちゃいけない。もつとしっかり、全力で気持ちよくなれるようにしてあげないと。

ということで、今日はまた違ったやり方を考えてみた。ついでに、オリジナルじゃない。ネットで流行ってたのをやってみようかって、ケンタイキ防止に見せかけたお誘い。

今回のお題は……これ！ 授乳手コキ！

ゆいの方から色々提案するの、プロデューサーちゃんは全然不審に思つてない。遠慮がなくなったわけじゃないけど、プロデューサーちゃんの方も唯とエッチなことは当然したいわけで……あつちから求められて、あれやりたいとかいわれることも増えてきた。

だから、ゆいが正座してお膝をポンポン叩いてあげると、大喜びで服を脱いで頭を預けてくれる。

仰向けになって、まさにゆいのフトモモを枕みたいにして寝転んだ彼。胸が邪魔でお顔が見にくい。頭がちよどフトモモとおっぱいの間に入り込む感じ。こんなふうなやり方で、苦しくないのかな？

ゆいのフトモモ固くない？ 気持ちいい？

蕩けきつた返事に、不安は全然なさそう。どうやらこのままやっちゃつていいみたい。ゆいのすること、だいたいなんでも喜んでく



れるプロデューサーちゃん大好き。

そういうことならもう遠慮はなしで、行くよーっと。

我ながらおっぱいおっきいから、あんまり前かがみにならなくても乳首を吸ってもらえる。まずは右のおっぱいから……口に含んでもらって、みるみるうちにおちんちんが反り返ってくる。あれを触ってほしいんだよね。

で、このままおちんちんを手でしごいて射精させてあげればそれでおしまい……というわけには行かない。本当に触ってあげたいのはそっちじゃないから。

軽く触れてあげて、ちよつとだけ期待させてから、右手を胸に伸ばす。前に見たときよりもほんの少しだけ大きくなってような気がする。乳首を指先でつまむとピクンっ♡と反応する。ちよつと驚かせちゃったけど、おっぱい吸うのは止めないから、こつちもこのまま続けられる。

ちゅっばちゅっば、軽く音を立てて、まるで赤ちゃんみたいに胸に吸い付く。そんなにされてもまだ母乳は出ないよーっ、なんて言ってみて……わざと「まだ」って言ったのに、気づいてくれるかな？ それどころじゃないかもしれないね。

少しだけ汗かいてちよつとるから、プロデューサーちゃんの乳首を触ってもあんまり強く擦れたりはいしない。右手の指でくりくりと捻ってこねて押しつぶして、びよんと引く張って離してみたり……あんまりやると痛いかもだけど、ついついやっちゃうよね。なにせ楽しいし、喜んでくれるのも、間違いないんだし。おっぱい吸う力が、だんだん強くなってきてる。胸ばっか弄りすぎたかな？ 同時にやれたらいいんだけど、さすがにそれは無理。

一旦乳首から手を離して、サオの方を握ってみる。直接触れてる時間は短い、はずなのに、おちんちんはもうギンギンで、これ、おっぱい吸ってたせいじゃないよね。

我慢汁もたらだら漏れてて、先っぽに塗り拡げるだけでも、今にも出しちゃいそう。必死に胸に吸い付いて授乳されながら、実はもう限界が近いのかな。どうしてそんなに感じちゃってるのか……教えてくれる？

ねーねー、おちんちん、まだ全然触ってないのにギンギンじゃん。どうしてそんなに盛り上がったの？ 何がそんなに良かったの？

口におっぱいねじ込んで返事できないようにして、また乳首を責めていく。何か言いたそうにしてるけど、顔におっぱい押し付けられてたらしゃべれないよね。ゆいのおっぱい、ふわふわで柔らかいから、顔に当たると鼻とか塞いじゃって息がしにくいみたい。

おっぱい好きなら、おっぱいに窒息させられるのも楽しい？ そんなことない？ どうだかなー。乳首もピンピンだし、先走りも垂れ流してるし……このまま射精できそう？ 出しちゃえるんじゃない？ どう、こんなかんじでさ、ほらあつ。

普通に膝枕してるだけでも、おっぱいがじゃまになって顔が見えなくなるくらいなのに、こうして思いっきり押し付けてあげたら、もうなんにもわかんない。んー、んー、つてくぐもった声が響くだけ。苦しそうなら解放してあげようと思ってたけど、むしろ嬉しそうだし、どんどんやっちゃうおう。このまま一気に最後まで……むぎゅっむぎゅっ乳首を押しつぶして、おっぱいたくさん吸ってもらって……まだ、直接触れずにイカせるのは無理かなあ。

しょうがない。もう少しだと思ってたんだけど……まあいいや。それならそれでやりようはあるしね。

ずーっとおっぱい吸われっぱなしだから、ゆいも割と気持ちよくなってきて、まさかこのままイっちゃうことはないと思うけど……ここまですといて先に果てるのもかっこつかない。いかにも物欲しそうなおちんちんに手を伸ばして、裏筋を根元の方からつつつとぞぞ。付け根のあたりを指で探って、ふにふにしたところを軽く押しながら先端までフェザータッチ。

たったこれだけでも限界。思ったよりイイ感じ？ これなら、おちんちんだけじゃなくて胸でもいけそうかな。

びんびんのサオを手で弄られて、もう射精する、その一瞬前に、ゆいはプロデューサーちゃんの乳首を思いっ切り引っ張った。

とっさのことで力が入りすぎて、これは絶対痛かったと思うんだ

けど、出かけたセーシは止まんない。うめき声と一緒にびゅくびゅくって噴き出て、しかもこれがまたすごい勢い。ゆいの顔の方にまで飛んでくる。普通に手でしてあげるよりも、明らかに帳が多い。そんなに気持ちよかったんだあ。ちよつと痛いぐらいがちょうどいいのかな？ お口を解放してあげて、感想聞いてみよ。

いっぱい出たねー。気持ち良かったの？ おっぱい美味しかった？ 手でしただけでこんなに出したの初めてだよ。溜まっていたのかな。これからは、毎日ヌイてあげたほうがいいかも？

あえて言わないでも、きつと分かってきてる。男なのに胸で感じて、それでこんなにたくさん射精しちゃったんだって。ゆいの追及からいくら逃げたって、自分の気持ちよさはごまかせないもんね。気が抜けたような、バツが悪そうな、それでいてどこか満足そうな彼の顔を見下ろして、自然と笑顔になっちゃう。

この調子なら、もうすぐにも胸だけでイカせられそう。次にエツチするのが楽しみだね。覚悟しててよねっ。

……で、そこからは、もう、早かった。

色々としてあげて、イチからゆい好みにじっくりと育ててきたプロデューサーちゃん。いよいよ収穫のとき。

その日は、最初はフツーにえっちしてた。ゆいが上になって、肩を掴んで抑え込むようにして腰をふる、ちよつとインランぽいやつ。胸を開発されて気持ちよくなっちゃう彼は、やっぱりというかMのケがあるみたいで、こうしてゆいに犯されるのも大好きみたい。痛かったり苦しかったりは嫌いなんだろうけど、ゆいだってそこまでするつもりは無いし。

ただ、二人で楽しくなりたいて、それだけなんだよね。

だから、一回戦を終えて、一息つきかけたとき。膝を立てて、抜くと見せかけて……また一気に腰を落とす。

びっくりしたような表情。なんかカワイイよね。もっと可愛くしてあげたくなっちゃう。

分かってるよ。一回出したら、すぐには出せなくなるんですよ。だから、ね。

両手で、思いっきり、容赦なく、プロデューサーちゃんの乳首を捻り潰す。

多分油断してたんだらうね。でも、もう遅い。ゆいにココまでさせたプロデューサーちゃんが悪いんだよ。

勝手におちんちんおつきくなっちゃうよね。どうしてかな？乳首が気持ちいいからだよね。

こうして……出したばっかの、ゆいのおまんこで搾ってあげたら……どうなるのかな。

怯えた表情を見せつつ、なんだかんだで抵抗はしない。ゆいに乳首引つ張られればなしだから身動き取れないのかな。かわいそー。慰めてあげなくっちゃ。

ぐいぐいつねるとちよつと赤みがかかった感じ。まさか取れたりはしないと思うけど、無理したら血が出る、くらいはあるかも。そこは気をつけてあげないとダメだよ。

一度射精して、おちんちんぬいてひと息つけると思ってたのにまたこうしてやられちゃって、ナカで苦しうに震えてるのがなんとなく伝わってくる。出したくてもすぐには出せない、のかな。一回出しただけじゃ精液は無くならないとか聞いたことあるんだけどな。まだタマタマの中に残ってるならそれも全部搾り出してみたい。

安全日だからって言って生えつつ誘って、ついさつきナカに出させたばっか。まだ暖かいザーメンが漏れてきてネバネバの感触。滑りが良くなって動きやすいから、膝をついてどんどん激しく腰を振る。

息苦しうなうめき声を聞いても止められない。手をこっちに伸ばして、押しのけようとしているのかもしれないけど、そりたつてる乳首を指先でこね回しただけで力が抜けちゃうよね。おちんちん全然柔らかくないし。

こういうのも気持ちいいんですよ。苦しくても、ゆいにムリヤリされるの気持ちいいよね？ 胸までいじってもらえて、幸せだよな？

言い聞かせてあげて、反論なんて全然ない。精子出てないだけで、ずつとイキつばなしなのかも。出せないのに気持ちいいってのがどんな感じなのかはわからないけど、気持ちいいならそれで全然問題ないはず。

苦しうな嬉しうな……普段は絶対見せない表情が面白い。男の人は、当たり前だけど胸に脂肪が全然ついてなくて、指を立てると硬い感触。筋肉と、その向こうの骨。女の子とはぜんぜん違っていてたくましい、けど……指先で弱い所つつかれただけでダメになっちゃうんだよね。軽くカリカリしながら乳輪をなぞると首の筋肉がピクツと反応した。

隠そうとして失敗したのかな？ もー。今更じゃん。とつくに手遅れだよ。

視線と視線がぶつかり合う。自然と笑みが溢れる。今までゆいが仕込んできた全部、これから、しつかり活用しないと。

人差し指と中指の間に乳首を挟んで優しく引つ張る。少しだけ持ち上げられてすぐに抜ける。右手で責めながら左手を彼の頬に当てて、顔を背けるの禁止。

じーっつと見つめ合いながら無言で触り続けてナカのが少し膨らんだような感触。気のせいかもしれないけど表情を見てれば効いているのはよく分かる。口の中に親指入れて頬の裏を探る。喋ったらいゆいの指囁じちゃうから、優しい彼はもう何も言えない。

口をふさがれて乳首で気持ちよくさせられて悶えるプロデューサーちゃんかわい。もつとかわいくしてあげたい。ゆいだけのゆいにしか見せない顔を見たい。

例えばそう、こうして胸をいじめられながら射精しちゃう瞬間の表情。

さつき出してから、どのくらい時間が経ったかわからない。早いのか遅いのかもいまいピンとこない。二回目だから精液も少ないかもしれないけど挿れればなしだし量なんて測れない。ただこうして男を抑え込んでムリヤリ出させるのがめっちゃくちゃ楽しい。ほとんど動かず胸を可愛がるだけで射精させちゃった。それでも

まだ上から退こうとしないゆいを怯えた目線で見つめる彼。これで終わりなんて、そんな味気ないのナシだよな。

おちんちんしごかれながらならともかく、おっぱいだけでイっちゃうなんてこれはいよいよ後戻りできない所まで来てるよね。クセになっちゃうかも？ まだなつてない？ それならもつとしてあげる。ゆいにムネいじられて気持ちよくなっちゃうプロデューサーちゃん……♪ 他の女に言い寄られても絶対なびかない一途な旦那様……♡ ゆい以外の女の人に誘われてもキッパリ断れる素敵なオトコに、これから、してあげるからね……♡♡

何も出なくなるまで搾られることを受け入れたプロデューサーちゃんの顔が、今日見た中で一番可愛かった。

……いじょーが、誰でもできる簡単な彼の落とし方でーすつ。

事務所で、ゆいが話し終えて、すぐには反応無かった。聞いてくれてた美嘉ちゃん、里奈ちゃんは、どっちも呆気にとられたみたいな雰囲気。「担当プロデューサーとずつと仲良くするためにはどうしたらいいか」って聞いてきたのはそつちだったのに。

……もしかしてわかりにくかった？ こうやって乳首でイかせてあげれば、男の人は絶対ゆいに依存してくれるし、浮気もしないし、おねだりすればなんでもいう事聞いてくれるようになるって、そういうことだったんだけど。

「ち、ちち、乳首い！？」 そんなの本当にあるの！？ そんな、それ、ドヘンタイだよ」

「いやー、唯ちゃん、まさかそこまでできるなんて。ウケるわー。アタシよりよっぽどやり手じゃん？」

まあ、ゆいも、最初から自信持ってやれたわけでもないし。いろいろ試しながらじつじつ慣らしていった感じかな。相手の反応見ながら……

「そりゃまあそうだよ。自分勝手なやり方されるとマジ冷める  
ぼよ〜」

でしょ。だから、これは技術じゃなくて愛情の勝利なんだよつ。  
ゆいがプロデューサーちゃんをもっと可愛がりたい、絶対逃した  
くないって、そう強く思ってたから、成功したんだと思うな。

だーからー……美嘉ちゃんも。担当のプロデューサーさんの  
ことを真剣に想ってるなら、できるよ。

「ア、アタシが？ ……ほんと？」

美嘉ちゃんのプロデューサーさんも、結構いい人そうじゃん？  
がつついた感じもなさそうだし、美嘉ちゃんのペースで進めれば  
きつと上手くいくよ。焦らずじっくり……丁寧に進めていけば、  
いつの間にか美嘉ちゃんにメロメロになって、他の女なんか見  
向きもなくなるよ。

「うーん……そうか……そうかな……？」

俯いて考え込む美嘉ちゃん。里奈ちゃんは、より深い話を聞  
くと身を乗り出してくる。

「その、乳首調教のやり方。詳しく教えてくんない？ 今の彼に  
フマンがあるとかじゃないんだけどさ、でも、もっと強く求めら  
れたらって前から思ってた。アタシよりイイ女が現れたらどうし  
ようって……不安なときもあるんだよ」

そういうことなら、もうちょっと色々詳しくお話しよっか。

ここじゃなんだし、女子寮でも行く？ 里奈ちゃんのプロ  
デューサーさんに聞かれないような場所でさ、具体的な話をし  
よーよ。

美嘉ちゃんはどうする？

「……行く！」

だと思ったよー。美嘉ちゃんも担当のプロデューサーさんのこと、  
大好きだもんね。

いーよいよよ、もっと具体的なオトコの堕としかた、みっちり伝  
授してあげる。

やっぱ仲間同士は助け合うもんだよねー。

ゆいたちは三人連れ立って、どこへも寄り道せず、まっすぐ寮へ  
向かうのだった。

作 ナシ・アジフ

乳首調教  
大規模  
唯ちゃんに  
いっぺん  
めっちゃ  
わかん  
んば  
!!

大槻唯の  
乳首性感開発メソッド  
作: 廃屋カヲ



おっけ〜♥  
唯がおっぱいの  
イジメ方

先生

じゃあ、あの  
よろしく  
お願いします…



いっっぱい  
教えてあげる♥

お手柔らかに…

目隠しい!?

あっ



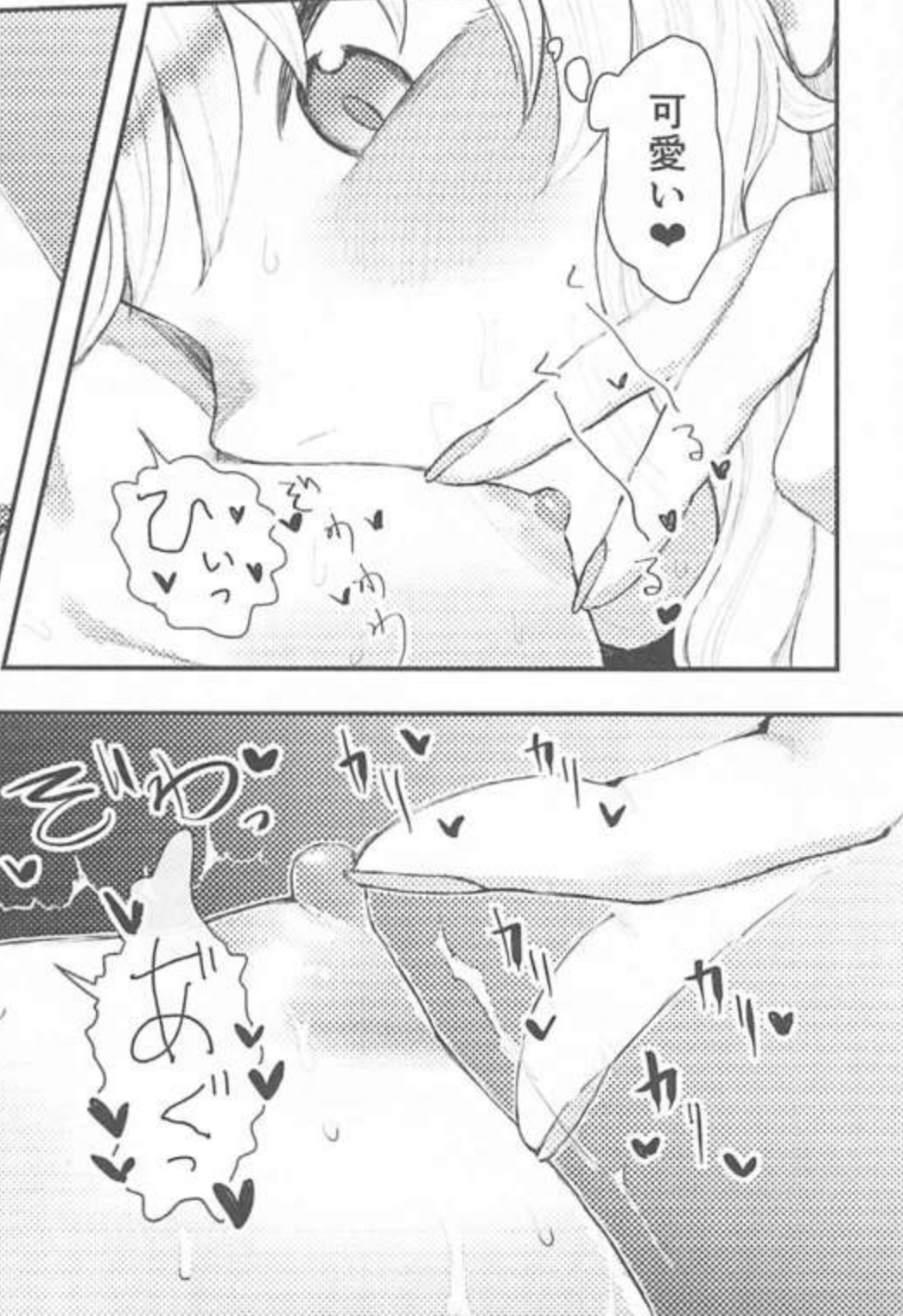
おっぱい  
集める  
この  
中  
出  
来  
ス  
ッ  
持  
ち  
よ  
〜  
イ  
イ

こんなの  
聞いてな…ッ

ひっ!?

そこはッ

あっ







10日後に乳首で感じるP

ごじやるん

何しとんのやろ

あれは…  
唯坊とP

お？

やっほー  
何しとるん？

周子か!?  
助けてくれ  
コイツが急に  
俺の乳首を  
今ね、  
Pちゃんの乳首  
開発してるんだ

いやほんまに  
何してんねん

Pちゃん乳首感じない  
って言うからささ  
それなら唯が  
開発してあげようと  
思ってた!

よくねえよ!!!

えめっっちゃ  
面白そう  
あたしも  
やっていい?

いいよ〜

だから感じないって  
言ってるだろ

そろそろ  
痛くなってきたし…

な〜んだ  
それならそうと  
早く言えはいいの♡

…へ?





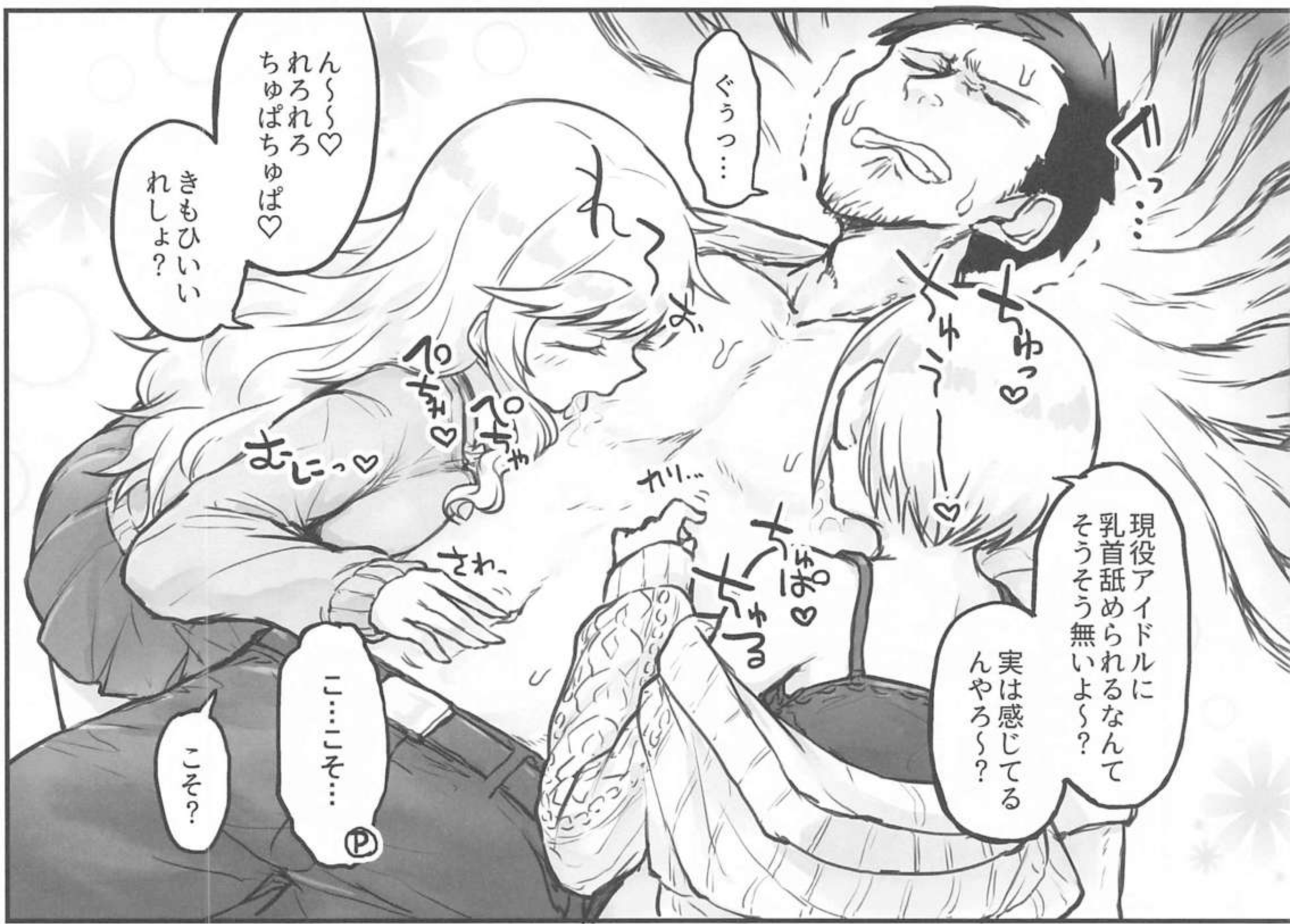
つ・ま・り  
指だと痛いから  
こうやって  
やさしく舐めて  
ほしいんだよね？

は!?! 違う...

ほく  
よくばりやなあ  
Pさんは♡

ばん

ん



現役アイドルに  
乳首舐められるなんて  
そうそう無いよ？  
実は感じてる  
んやろ？

ぐう...

んんん♡  
れろれろ♡  
ちゅぱちゅぱ♡

きもひいい  
れしょ？

まに♡  
んんん♡  
おんんん♡  
さわ...

「...」そ...

こそ？



だから乳首なんて  
感じるわけない!!  
P

え



こそばゆい  
わー!!!!

乳首で感じるまであと9日

もう♡  
Pちゃんっ♡♡  
おちんぼめっっちゃ  
がちがちじゃん♡♡

えへへ♡♡  
でも今日はゆいの気持ちを知ってもらうんだあ♡♡

今日はゆいが  
Pちゃんをいっぱい  
虐めてあげるから♡♡



まずはあ  
—っ♡

わっ♡♡♡



いっつもゆいばっかが  
いじめられてるからあ♡♡  
今日はゆいが  
仕返しする番♡♡

今日のために  
えっちな動画でみてきたんだ♡



おちんぼ舐めるときみたい  
にちくびいっぱい  
れるれるしてあげる♡♡

ほう?  
ひもひい♡へほ♡♡



乳首いじるだけで  
めっちゃおちんぽ  
びくびくしてる♡♡

もどかして  
あばれてるのかな♡♡



えへへ♡♡  
すっごい歯を食いしばって  
我慢しててかわいい♡♡  
おちんぽさわってほしいんだあ♡♡  
早くイカせてほしいんですよ？

でも……♡♡  
もーちよっとだけ  
我慢しよっか♡

体おこして〜

ほらほら♡♡  
おちんほの先っぽから  
いっっぱいヨダレ出てるよ♡♡

早くびゅっびゅっ♡♡って  
射精したいんだよね♡♡

びゅっ♡♡

びゅっ♡♡

びゅっ♡♡

乳首いじられただけで  
気持ちよくなっちゃ  
ったんだよね♡♡

じゃあ……

あはっ♡♡  
ほんとに乳首だけで  
イカせちゃった♡♡



じゃあ次は  
お尻出して♡♡

!?!

END...?

いいよ♡♡  
いっっぱい射精しちゃお？

『大概唯ちゃんに乳首だけで射精させられた時の話です』

あ、プロデューサーちゃん！おっつ、調子どう？ ……ん、

あんま？ あつは、なんかテンション低い！ ……や、まあ無理ないか？ ……んふふ♡ もう3週間くらい射精できてないもんねー…♡

ね、プロデューサーちゃんって普段結構する方だつて言ってたよね？ つらい？ しんどい？ あつはは♡ そんなコワイカオすんし♡

……ていうかさ、忘れてない？ ほら今日、約束の日じゃん？ ……そ、んふふ、やるときもちよくなれる日だね…♡

んも、そんなオネダリしても今はダメ！ 夜まで待て！ んん、待て♡

ね？ ……ん、えらいえらい♡ たぶんまた、いつものところに、いつものカッコでいると思うから。お仕事終わったら連絡よろしく！ ……今日ね、すっごいのやるつもりだから…♡

……くひ♡ んじゃね♡

\*

……あ、プロデュー……じゃないや、ごめんなさいお兄さん。じゃあ、ホテル行きましょつか。……ん？ ……あはは、ごつめんなさい、ほんと外では気をつける、あ、気をつけますって……ね、今日はたっくさん気持ちよくしてあげますから…♡

\*

……っはっは！ やっぱ変装のマスクって窮屈だなー。メガネは好きなんだけど曇っちゃうし……んえ？ あー、ほんとごめんってば。プロデューサーちゃん見てテンション上がっちゃうたの！ ……ん。気をつける。気をつけますってば。許してくださいよお、お兄さん♡ ……あは、もしかして変装モードのゆいも好きだったりしますかあ？ それともこういうゆいの喋り方聞いとると、『これからゆいにエッチなことしてもらえらんだ』って覚えちゃって、クセになったりとかしちゃってますか？ ……？ んふふ♡ かーわい♡ じゃあ、耳元で……こうやっていつもより大人しいゆいに、こしょこしょ…♡ ひそひそ

……♡ つてお話しされるのとか、ひよつとしてぞくぞくしちゃったりするんですかー…♡ あは♡ エッチな声出てますよ、お兄さん♡ お耳赤くなっちゃうってませんか？ んひひ…♡ おいしそうだな…♡ 食べちゃおっかなあ…♡ あ…♡

はい、変装モードおっしまいつ！ シャワー浴びてくんね！ ……ドキドキした？ ドキドキしてるっしょ♡ あつは、やばウケる、めっちゃ悔しそっ！ やははは、あは、んっふふ…♡

……やっごめんで、プロデューサーちゃん反応かわいからちよつとノっちゃうんだよ。よしよし、ね？ いい子だから怒っちゃめーだよ？ ……あは、素直♡ ……ね、そのうちこつちのゆいでもエッチなことしてあげましょつか？ お兄さん♡ ……きゃっ！

プロデューサーちゃんが怒るっ！ うははは、シャワー室にたいさーん！

\*

ふ、プロデューサーちゃんシャワー使っついでいいよ。……入りに来てよよかったのに♡ あはは、んじゃ待ってるかんね。

\*

あ、おかえり。……ん？ んふふ♡ これ？ これなーんだ♡ ……そんでーす、ヘンタイのプロデューサーちゃんをタイホする用の、手錠♡ しかも……あは、ふたつあるね♡ んじゃ、タイホされたいひとは、服を脱いでベッドに仰向けになってくださーい♡

\*

……よし、つと。プロデューサーちゃん、動ける？ ……ん、動けないね。……あーあ…♡ ね、プロデューサーちゃんさ、今の状況わかってる…？ 両手は手錠でベッドに繋がれて、2人ともハダカで……絶対抵抗できない状況なのに、なーんでそんな嬉しそうなのかな…♡ あは♡ その犬っばい顔カワイーからやーめーれ♡

……んでね？ ちょっと考えてることがあるんだけど……今日ね、プロデューサーちゃんのちんちんは触ってあげない♡ ……ん？

や、ちゃんと気持ちよくしたげるよ？ 約束はちゃんと守るもん！ ……じゃあさ、どこで気持ちよくなれると思う？

……そうだよ、それしか考えらんないよね…♡ ゆいがじつくり時間かけて育ててきた、プロデューサーちゃんの……ち、く、び♡

んふふ♡ こうやって、周りをくるくるっつてなぞるだけでも……あ…♡ もうせつない声出てるじゃん…♡ がーまーん♡

♡ 声我慢しないとちゃんと弄ってあげないよ…♡ 今日ね、プロデューサーちゃんに乳首イキ覚えさせちゃうから♡ だから、ね？ 声ちゃんと我慢して♡ じゃないと、ずつと触ってあげないよ？ 焦らしたまんま朝になって、結局おうち帰ってひとりですることになっちゃうよ？ そんなのやだよ、悲しいよね♡ だったら声出しちゃだめだつてば…♡ 指ですりすりされるの、乳輪なのにもちいんだ？ いけないんだ！♡ 声我慢できたら、乳首直接すりすりしたげるのにな…♡

……ほら、すりすり…♡ こしこし…♡ ……つて♡ これ乳首にされるの想像してみ？ やっぱいいよ♡

他にもさ、こうやって爪立てて、かりかり…♡ かりかり…♡ ……♡ あ…♡ やっぱあ…♡ 乳輪かりかり気持ちいい…♡

♡ 乳輪やだあ♡ 乳首直接かりかりしてよ…♡

\*

……あはは、今更何さー♡ プロデューサーちゃんの考えてることとか、カオ見たらわかっちゃうもん！ ……特に、えっちなことされてる時はね♡ プロデューサーちゃん、責められるとすっごいわかりやすいカオしてるんだよ？ それされるのやだ♡ つてカオしてるときに、同じこと続けるとき……すんごい嬉しそうなカオになるんだよ♡ まーぞ♡ くひひ♡

\*

んで、次にプロデューサーちゃんにしてほしいのはさ……当てたげよつか？ 当てたげよつか♡ ベロで焦らされたいっしょ♡ ……あつはは、凶星♡ ……んは、れる…♡ こおやっつて、んちゅ……はあ…♡ ちくびのまわり、んむ、舐められるの……えはは♡

♡ また犬のカオしてる♡ ていうか声ちゃんと我慢しなつて♡

♡ ゆいだつてプロデューサーちゃんの乳首早く舐めたいんだよ？

そんなさー、ねだるみたいな声出されてさあ……もう我慢できないんだってばあ……早くプロデューサーちゃんの乳首触りたい、気持ちよくしてあげたい♡ 女の子みたいに、あつ♡ んん♡♡ つてえつちな声出すの、いっぱい聞きたいんだよ……？

でも、すぐ触っちゃったらせつかく3週間も我慢してきたのに勿体ないじゃん？ もっとたつぷり焦らして、もう限界だうって時にさ……にゆるにゆるううって、思いつき舐めたら……うっはは♡ やっぱいよねえ……そんなのきもちいいっしょ……♡ だからゆいも、乳首舐めるのがまん……がま……ん、

ん、れるおお……♡

……あは、無理だった♡ んあふ♡ ん、えう、れる……んぢゅ♡ ちゆる、れう、んろお……はふ、れえ……♡♡ 声漏れちゃった……ちゅ♡ ちゅつ、むちゅ……はむ、あむ♡ んぢゅうう……っ、ぶあつ♡

えへへ、ごめんね？ でもプロデューサーちゃんも悪いんだよ？ こんなおいしそーな乳首ふたつもくつつけてさあ♡ ゆいががんばって育ててあげたんだもんね……はやく気持ちよくしてして、って、おねだりするみたいになつくりしちゃって……女の子みたいじゃね？ あは、ゆいと乳首おそろいになっちゃった♡ ……で、今日は……乳首だけじゃなくて、カラダもおそろいになっちゃうんだよ……？ んふふ、乳首イキ覚えさせるつつたつしよ♡ ……ん、ゆいもね、けっこう弱いんだ。……ん、あんま言ってなかったけど。ひとりで、ね？ する時とか……よく触るの。……あは、ヤバ、ちよつとハズいね。んで、そのうち乳首だけでさ、イけるようになって……たまにしているよ。……ん、ちようどさ、今のプロデューサーちゃんみたいに仰向けになつて……最初はね？ くるくる……って、こようって周りだけなぞって焦らすんだ。そうした方が、後できもちーから。……ああ、ゆいの乳首いじり、プロデューサーちゃんに全部バレちゃうな……♡ 「唯は家で乳首触る時、こようってしてるとだ」って、身体で覚えられちゃうんだ……♡

……っあ、えつちな声めつちや出てるじゃん……♡ ゆい

のオナニー想像して興奮したんだ？ んふ、いっぱい興奮していいよ……おんなじ事プロデューサーちゃんにしようかんね♡ ……で、乳首がまんできなくなったら、先つぼのどこをね？ 指のお腹のところ……

えい♡ こようってコスんの。……ん……やばやばやば、これ気持ち良すぎるね……♡ んふ、知ってるよ？ ゆいもこれで気持ちよくなるんだもん♡ ちゃんと覚えてね？ こんど通話しながら一緒にしようね？ ねっ♡ 今日ゆいが乳首いっぱいごしごししてあげるからさ♡ ……あ、腰暴れてきた♡ あはは、口デオだ口デオ♡ ……あ、ちよつ、ちんちん押し付けんのやめ！ 今日乳首だけつつたつたじゃん♡ 腰動かすな……♡ ……え、指？ 止ーめない♡ プロデューサーちゃんが腰我慢すれば済む話だもん♡ ほら動くな、めっ♡ 代わりに、もつと声出してーからさ……ね？

……ん、えらいつ♡ 腰止まったね♡ ……うっはは、声やっば♡ めつちや喰るじゃん♡ どつか抑えるとどつかヤバくなっちゃうんだね、かんわいー♡ じゃ、もうちよつとごしごし続けよっか……♡

\*

……は、たのし♡ 20分も経つちやった♡ そろそろ乳首ヤバくなつてきたつしよ♡ ゆいは普段もうちよつと短めだけど……プロデューサーちゃんは男だし、乳首初めてだし……じつくりやんなきゃね♡ そんじや次は……ずつとこすられて敏感になっちゃったちくび、爪でえ……んふふ、うりやっ♡ あ、かりかりやっぱいね♡ さつきまで乳首優しくしてもらつたのに、いきなりひどいふうにされちゃつてんね♡ 先つぼびりびりしてるのに、胸の奥超切なくなつてたまんないよね……♡ んで、爪でひつかくだけじゃなくて……こようって、指で乳首つぶして、こねこね……ってしたりとか……♡

あは♡ プロデューサーちゃんこれ一番好きだもんね♡ 一番気持ち良さそうなかオするし……そうだね、カオ隠せないね♡ 恥

ずかしい？ んふふ、そのつもりで手錠したんだよ♡ プロデューサーちゃんのはじめての乳首イキ、ちゃんとカオまで見ないと勿体ないじゃん♡ プロデューサーちゃんのかわいいとこ、ちゃんと見せてね？ ね♡ ……ん、ありがと！ プロデューサーちゃんダイスキ♡ ……あ、今の声なんだ？ んひひ♡ プロデューサーちゃんもゆいのことスキ？ ……『うん』じゃなくってさ……！ ね、ちゃんとこ言つてほしいな？ ……ん……うん……えへ♡ ん、ちゅっ♡ ……チュウしちゃつた♡ 好きな人にスキって言われるの、ゆいも嬉しーんだ……ね、もつとしよ……♡

ん、ちゅう……♡ くちゅ、つぶ……れる、んう……♡ は……♡ ……すき♡ れ、んちゅ……ふう、っ、んむ……っはあ……すきっ……すきすき♡ プロデューサーちゃんだすき……♡ ちゅ♡ プロデューサーちゃんかわい……♡ プロデューサーちゃんのこんなトコ見られるの、ゆいだけなんだって思うと、すっごいドキキすんの……♡ 乳首いじめられて、ちゅーされて、顔どろどろになつちやつてるの、見られんの、ゆいだけなんだって……♡ ちゅうっ……♡ れろ、ん、あふ……♡ はむ、ん……♡ ちゆる……♡ つちゅう……♡ んく、ん……♡ つちゅ……っは……♡

……ん……？ もうやばい……？ あは、イキそうなんだ……♡ お腹の奥うずうずしてきた？ 射精しそうな感じ？ ……そうだよ、わかんないよね……♡ んふふ、だいじょぶ♡ ちゃんとイけるよ♡ 乳首とね、お腹の奥に集中して……いつもの射精思い出して♡ 我慢していっぱい溜まった濃いやつ、ぶびゅう……♡ ……♡ つて出すこと想像して？ ね♡ あっ、あつ♡ やばっ♡ やつと射精できるっ♡ ずっと我慢してた射精、乳首でしちゃうっ♡ ゆいと一緒のやりかたでイっちゃうっ♡ ゆいのお腹に3週間も溜めたやつばいやつぶつかっちゃうっ♡ ……♡ いく♡ 乳首いくっ♡ ……♡ きもちいのくるくるっ……♡

あ……出たあ……♡ お腹あつっ……♡ ……へえ……♡ プロデューサーちゃん乳首イキするときそんなカオすんだね……♡ かわいー♡ すき♡ んふふ、だーいすき……♡ きもちーね……♡ ちゃんと最後まで乳首こねたげるからね……♡

……あは、ちゃんとイけんじゃ〜ん♡ やったね、プロデューサーちゃん♡ んじゃ、手錠外そっか。……ね、プロデューサーちゃんの身体、乳首イキ覚えちゃったね♡ もう戻れなくなっちゃうね……♡ これからゆいに乳首でいっぱい気持ちよくされて、クセになつて、お家でひとりでする時も乳首だけでシちゃったりするかも……♡ あーあ、そんな風になつたらもうフツの人ドン引きだ♡ 男なのにある得ない〜つてなっちゃうな♡ ……そしたらさ、もうゆいくらいしか相手してくれなくなっちゃうかもね〜……あは♡ ん、そだよ……ゆいはプロデューサーちゃんのこと、だいつ好きだから♡ 普段はお仕事もできるし優しいし、超カッコいいのに……こーんなカワイーとこまで見せてくれるんだもん♡ 絶対嫌いにとかなんないし♡

……はい、手錠取れたよ。……ね、プロデューサーちゃん。ハグしよっか♡ んふふ、ぎゅーっ♡ お疲れさまっ♡ ……は〜、やっぱこれなんだよね〜♡ プロデューサーちゃんにハグされるの、すっごい幸せ……♡ ……ね、知ってる？ ヒトつてね、乳首触られると、幸せになるホルモン？ みたいなのが出て……目の前の人のこと、どんどん好きになつてっちゃうんだって。……んふ、雑誌で読んだ♡ つまりね？ その、プロデューサーちゃんは今日、ゆいのこと昨日よりずっと好きになっちゃったのかな〜、つて……どう？ 好きになつた？ あは、うれし♡ ……ね、プロデューサーちゃん。今度……ん、いつでもいいからさ……今日プロデューサーちゃんにしたこと、ゆいにもしてほしいな。それでゆいも、もつとプロデューサーちゃんのこと、好きにさせてね……♡ えへ♡

(おわり)

作 ガサキ

乳首大規唯ちゃんに  
いざめっちゃんたん  
(お!!)



悪いことをすると  
唯ちゃんに  
逮捕される世界

お肉





ゆい 魚警官  
やめようよ 夢美さん  
POLICE



▼後日、ゆい視庁HPにアップロードされた写真



ストレス解消の為に  
定期的にPのアメ(乳首)を  
舐めにやって来る唯ちゃんの図

作・ゴロウタメ

Pちゃんのココロ♡  
またおつきくなつたよねー♡  
ゆいがイジメてない時は  
自分でイジってるんでしょ？  
ゆいに関発されちゃって  
Pちゃん変態になっちゃったね♡

グリグリされるだけで  
気持ち良くなっちゃうんだー♡  
マジ気持ち悪いねっ♡

変態乳首いただきまーす♡  
マジにアメみたいだね♡  
ずっと舐めてられそ♡  
Pちゃんの喘ぎ顔見ながら  
責めんのちょー好きだから  
もっとな喘いでいーよ♡

こやつでコリコリされんのも  
マジ好きだよねー♡  
優しく舐めんと一緒に  
乳首潰されたいんだよね♡  
恥ずかしー乳首♡  
こんな変態相手するの  
ゆいくらいだよ♡  
感謝してよね♡

ほらほらっ♡  
乳首取れちゃうよ♡  
マゾ乳首なんて  
使い道ないし  
別にいっか♡

あつ、おチンチンがもう  
我慢できないってさ♡

乳首だけでイッちゃうんだあ♡  
あはっ♡いいよ、Pちゃん♡  
乳首だけで白いの  
びゆるびゆる〜ってしちやお♡

ほら、イっちやえ変態っ♡  
イケっ♡イケっ♡

乳首で射精するの気持ちいいよね♡  
ゆいも乳首イジメるの超たのしー♡  
まだまだ乳首開発してくから  
一緒にがんばろーね、Pちゃん♡



おん♡

おん♡

おん♡

たん♡

たん♡

たん♡

たん♡

たん♡

たん♡

おん♡

おん♡

おん♡

はー♡

はー♡

ん♡

ん……♡

おん♡

ん♡

ん♡

レインボーゆいちゃんズの七色乳首責めになんて絶対負けたりしない……!

今日もこの日がやってきた。

キミは決意を胸に扉を開く。埼玉県某所の大槻家、唯ちゃんの部屋の扉だ。翌日までパパもママもないからこっそり男の人を呼んだってセーフな日。

キミは、大槻唯とひとつ賭けをしていた。

それは――

「あ、プロデューサーちゃん！ やほやほ☆」

ドアを開くと、迎える大槻唯の数はなんと七人。

それぞれ髪の色が違い、ノリやテンションも違って、だけどキミのことが大好きなのは同じ。

「もお、遅いよプロデューサーちゃん！ ゆいたち、めっちゃ待ってたんだからね！」

「ふーん、ゆいはそんなでもないけど……まあ、別にいいんじゃない？」

「えへへ……ゆいたち、のんびりしてたんだ。プロデューサーちゃんも一緒にのんびりしよーよー」

「いやいや、その前にやることあるっしょ！ ガッツだよプロデューサーちゃん!! 今日もしまっていこー!!」

「プロデューサーちゃん来てくれた……もし来なかったらゆい、どうしようかと思ってた……くすん」

「プロデューサーちゃん♡ いいんだよ♡ もし他のゆいがイヤになっても、ゆいだけはプロデューサーちゃんの味方だからね♡ ゆいのことだけ見ていいよ♡」

彼女たちは、それぞれの特性を持った大槻唯。七人の唯、すなわちレインボーゆいちゃんズなのだ。キミは彼女たちと戦わなければならない。

戦いの内容は……一人ひとりから、乳首をイジめられちゃうこと。キミは七人の唯ちゃんズの七通りの乳首責めを受け、乳首イキでおちんちんからザーメンどびどびゆしちゃうわないう耐え抜かなければならない。

もし耐え抜くことができれば……。

七人の唯ちゃんズ、全員にラブラブ種付け中出しえっちをしてもいいとの約束だ。

唯ちゃん孕ませハレム……どんなに気持ちがいいことだろう。想像するだけでキミの喉がゴクリと鳴る。

だがその為には、まず勝たなければいけない。

「はいっ！ じゃあ早速、今日の勝負始めるよー♪」

合図を受けて、ゆいちゃんズが目がじとお……♡ と湿り気を帯びる。七つの視線がキミの乳首に集中する。

キミは潔く服を全部脱ぎ、唯ちゃんの匂いがたあっぷり染みついた、唯ちゃんのベッドに横たわるのだった。

バトル、スタート!!

「もうっ！ プロデューサーちゃん、昨日オナニーしたでしょ！ そーゆーのわかんだからねー！」

レッドゆいちゃんは怒りの唯ちゃん。いつもふり怒っていて、七人の中では一番気性が荒い。だけどそこは唯ちゃんなので、あんまり怖いことは言わないのだ。

「じゃ、一番はゆいだから。プロデューサーちゃんは動かないでね？ 動くの絶対ダメだかんねっ」

ぎしっ……。

キミの傍に、真っ赤な髪の大槻唯ちゃんが寝そべる。その甘い香りだけで、キミのちんぼがピクッと反応する。

だがレッドゆいちゃんの言う通り、キミは前日にオナニーでザーメンを又いている（オカズは唯ちゃん）。言うなれば賢者に最も近い状態であり、これならそう簡単に乳首イキさせられることはない筈……。

「もう怒ったっ。ゆいがオシオキしてやるからっ！」  
ほっぺたをかわいらしく膨らませ、レッドゆいちゃんの両手が乳首に伸びる。

きゅむ♡ くりっ♡ くりくり……っ♡  
丁寧にネイルした細くてすべすべの指が、キミの乳首をゆ〜っ♡ さすさす♡

キミの乳首はゆいちゃんズにすっかり開発されきっているの、これだけでもう気持ちいい。ちりちり♡ と甘い電気が走ったみたいになって、気持ちいい、気持ちいいがゆ〜っ♡ 広がっていく。

きゅ、きゅっ♡ くに♡ くにゅ……♡

両方の乳首を指でつままれると、徐々にキミの意識が薄れていく。

気持ちいい♡ このまま、ずっと優しくイジり続けてほしい……♡  
むくむく……っ♡

「あ……♡」

「わあ……♡」

周りのギャラリィゆいちゃんから歓声が上がる。  
昨日又いたばかりなのに、キミのおちんちんはほとんどマツクスに大きくなっていく。触られてもいないのに、乳首への刺激だけで、

交尾できる♡ なんて勘違いしてオスの本能剥き出しにしてしまう……。

……。

にたあ……♡

だがお忘れだろうか。レッドゆいちゃんは怒りの唯ちゃん。これはキミを喜ばせる為でなく……。

「……おしおき♡」  
ぎゅううううっ♡

いきなり、両乳首を思いっきり強くねじられる。

キミの口から情けない声が出る。ギャラリィゆいちゃんズは「うっわ♡」「エグう♡」とニマニマ顔。

「ねえ、ゆいたちに何か言うことない？ なんでゆいが怒ってんのかあ、わかんないかなあ？」

ぎゅっ！ ぎゅむむっ！♡ ぎゅりッ、つねりっ♡  
ぎゅっ、ぎゅっ！ ぎゅううううっ!!♡

痛い。痛いのにもちいい♡ 赤くなって痕が残るくらいにヒドく抓られているのに、キミのちんぼはびくんびくんイヤらしく反応する。

「わかんないのお？ それとも知らないフリしてる？ あのね、ごめんなさいでしょー！ ゆいたちにナイショでオナニーして、大事なせーえき勝手に又いちゃって！ ほおら、ご・め・ん・な・さ・い!!」

ぎゅぎゅううううううううっ!!♡♡

「ごめんなさい、オナニーしてごめんなさい！ 唯ちゃんたちの大事な精液無駄にしてごめんなさい！」

キミは乳首を抓られながら必死に謝る。怖くて痛くてきもちいい。

レッドゆいちゃんは謝り続けるキミの横顔をむんっ！と睨みながら、乳首をシゴきあげるのを、ぱつと止めた。

「……はい、よくできましたっ♡ ちゃんと謝れて偉いねプロデューサーちゃん♡ ゆいもう怒ってないよ♡」

はあ、はあ、はあ……。

キミの荒い息が部屋に溶けていく。「ほんとに謝っちゃった♡」

「あゝあ♡」「かわいい……♡」というゆいちゃんズの嘔きをバックに、レッドゆいちゃんが離れていく。

よく耐えた！ 選手交代！

「じゃ、次、ゆいね」

ブルーゆいちゃんはクールな唯ちゃん。

そのクールな責めとは……脚を使うこと。

ブルーゆいちゃんはソックスを脱ぎ、ぶにすべの足の裏を乳首にあてがう。その冷たさに、さっきの責めでじんじんする乳首が反応し、変な声が出てしまう。

「……きつむ」

ブルーゆいちゃんは平然とした顔で吐き捨てる。そのまま、仰向けに寝転がるキミの上に……。

のしっ♡

むっちむちのお尻が、ちょうどキミの丸出しちんぽの上のしかかる。心地よいぶにぶに圧迫感にキミのちんぽが悲鳴を上げる。

しっとり温かく、きめ細やかな下着の布の感触。それ越しに竿を押し潰す、マシユマロみみたいな柔らか肉。これは……。

「なに想像してんのお？ マジきもいんですけど♡ プロデューサーちゃん、ヘンタイすぎ……♡」

しゅにっ、しゅりゅっ♡ くにゅ♡

さす、さすさすっ♡ くちくちい……っ♡

足の指でも、唯ちゃんのテクは鮮やか。ブルーゆいちゃんの得意足の足技は、キミの乳首を翻弄する。

足裏のひんやり感と、強すぎず弱すぎずのクールな責めが合わさって、さつきいじめられた乳首に爽やかでさえある快感が蘇ってくる。

何よりキくのは、足が動く度に……、

むにゅっ♡ むにい♡ ぐにぐに……っ♡

くりゅ、ぶにゅむに♡ むち♡ むちゅちゅ……♡

ふとももが蠢き、お尻が前後して、キミのちんぽを刺激するのだ。なんということだろう。「ゆい、おちんぽ攻撃なんてしてませんけど？」などという顔をして、実質二か所を責めている。これがクルゆいちゃんの、クレバーなダブルアタックなのだ。

「ん……♡ プロデューサーちゃん……もしかして、作ってる？ この、ゆいがお尻でむぎゅむぎゅしてのおちんぽの……ぶつくりした、キンタマ♡ から……濃おいせえき、ぎゅるぎゅる作っちゃってる……？」

ぎゅるっ♡ めぐるぎゅるっ♡ ぐつぐつ……っ♡

その通り、へその下からキンタマにかけて、熱が集中している。昨日古いザーメンを捨てておいたはずのちんぽに、今まさに新しい精液が増産されているのだ。

「……さいつてー♡」

ぎゅむっ！♡

体重をかけて、両足で乳首を挟み込むブルーゆいちゃん。ぐりゅりゅっ♡ と重気持ちよさで精液が集まり、なのにムチケツの重みで押さえつけられて。

ぬち……♡ くちゅ♡ じゅわあ……っ♡

と、ちんぽに湿気と熱を感じる。キミのガマン汁もちよびつとあるが、それだけではない。

ブルーゆいちゃんのパンツ越しに何か染み出ているのだ。熱くてねっとりした、よくわからないお汁が。

これはなんだろう。やわらかマン肉に絡まり、下着越しに染み出して、キミのちんぽをじつと汚すお汁とは一体……？

「……ふふ♡ おくしえない……♡」

くちゅっ……♡

答えを提示される前に、ブルーゆいちゃんは離れてしまった。脚も乳首から離れ、キミは一気に心地よい重みから解放される。立ち上がるブルーゆいちゃんのお股、一瞬見えたスカートの奥が、じつと……♡

「……♡ 湿っていたことは、果たして気のせいだろうか？」

「はあ、マジきもい……♡ サイテーじゃん♡ ゆい、もう相手してあげない……♡」

ブルーゆいちゃんも耐え抜いた。さあ次だ！

「えへへ。プロデューサーちゃん、ゆいだよ。みんなヒドいからさあ、ゆいとの時くらいはゆつくりしようね……♡」

グリーンゆいちゃんはぼやぼや唯ちゃん。のんびりふわふわ、お昼寝が一番好きな唯ちゃんだ。

今ものーんびりした感じで、キミの横に寝そべるやいなや、頭を優しくナデナデしてくれた。

「いーこ、いーこ……♡ がんばったね♡」

グリーンゆいちゃんはキミに好き好き♡ ラブラブ♡ と愛情たっぷり頬ずり添い寝をしてくれる。とつてもいい匂い。キミの心がすっきり落ち着いていく。

これは休憩時間か？ ゆいちゃんズがもたらした、乳首とちんぽを休めるための癒しの時なのだろうか。

しかし、一見ダウンーに見えてもそこは唯ちゃん。

小悪魔チックなイタズラ心と、プロデューサーちゃん好き好き大好きいちぢめたいの気持ちが他の六人と同じくらいにあるのだ……！

「ん……♡」

さわっ♡

「んふ……♡」

すりっ♡

「くふふ……♡」

さすさす……っ♡

グリーンゆいちゃんの指は、さつきからキミの乳首に触……りそ

うで、触らない。

胸元とか、ちよつと下っつてお腹やおへそ、ギリギリまで近付いても乳輪をやさしく撫でさするだけで、ちつとも気持ちいいとこ触ってくれない。

ああ、また指が近付いて。ピンピンに敏感になった乳首に近付いて……ふいつ、と離れてしまう。その間にも緑のふわふわ髪が横顔に触れ、ふうう……っ♡ と甘い吐息が耳をくすぐってもどかし

い。

じれったい。気持ちいいのに気持ちよくなりきれないなんて。勃ちっぱなしのおちんぽが、抗議するみたいにびくんびくん跳ねている。グリーンゆいちゃんは、ニマニマゆつたり、おとほけ顔で……。

「え？ なあにい？ どうして欲しいのお……？」

もどかしくて泣きそうな目を向けると、小首をかしげて知らん顔。その間も指は、乳輪をさわさわっ♡ おなかを、すりすりっ♡

「さつき言っただけでしょ？ ゆいと一緒には、おやすみしようって……♡ だから、こっちもおやすみな♡」

グリーンゆいちゃんはちよっぴりいじわるな瞳で、悶えるキミの横顔をじいじい……♡ と見つめている。

ギャラリーゆいちゃんずも「あちゃ〜……♡」「ひどお♡」などと、ニタニタ事の経過を見守るだけ。

キミはついに我慢できなくなる。お願いします、乳首弄ってください、気持ちよくしてください——そう言おうとしたところで。

「きこえな〜♡」  
ずぼっ！♡

キミの口に、何かが突っ込まれた。もがもがもが。喋れない。それは、丸められた布のようで。

「ね、おクチの中、何かあると思う……？」  
すり、くちゅ……♡

添い寝しながら、キミの足にふとももを絡める唯ちゃん。よくわからないけど、何か湿った感触がして。やっぱり彼女は、明らかに何か履いてなくて。

「んふ♡ ゆいの……お・ば・ん・つ♡♡」

汗とおしこの残り香と、生ぬるい何かの湿り気が染みついたばんつに、キミの唾液が絡んでいく。

びくんっ、びくびくっ！♡

「やだあ、興奮してる〜♡ ゼーんぜんおやすみできてないじゃん……♡ も〜、プロデューサーちゃんってばしょーがないなあ……♡♡」

乳首すら触られていないのに、キミのちんぽがみつももないほど反応してしまう。くすくす♡ にたにた♡ グリーンゆいちゃんはその様子を見つめて「だっさあ……♡」とあざ笑う。

「はい、ゆいの番おしま〜♡ 楽しかったよ？ また抱き枕になっただけ……♡♡」

ずりゆっ。と、キミの口から、くしゃくしゃになったばんつを引き出す。そして立ち上がり、唾液まみれになったそれを平気で

履いて、くふ♡ と笑うのだった。

じれったさと疼きだけが高められて、グリーンゆいちゃんは無慈悲にもキミから離れてしまった。

果たしてこれは、耐え抜いたと言えるのだろうか？  
いいや油断するなかれ。グリーンゆいちゃんの責めの真価は、パ

トンタッチしてこそ発揮されるのだ……！

「やつほープロデューサーちゃんっ！ どうとうゆいの出番だよー♡☆ キアイ入れていくから、プロデューサーちゃんもファイ

トっ！ おーっ！！

オレンジゆいちゃんは情熱の唯ちゃん。七人の中では一番元気で、スポーツでハイテンションで、とにかくパッションな唯ちゃんなのだ。元気印は大槻唯の特徴だけど、彼女はそれがひととき強く、

がんばればがんばれ！ ファイト一発！ おーっ！ な唯ちゃんだった。その証拠に見よ、オレンジゆいちゃんの手元を！

両手にはオレンジ色のボンボンがあつて、チアガールみたいにフリフリ振ってくれているのだ！

「じゃ、いくねーっ☆ プロデューサーちゃんは大人しくしていいよ？ ガマンに集中してねっ」

のしっ……♡

そのまま馬乗りになり、覆いかぶさってくるオレンジゆいちゃん。ふれーっ♡ ふれーっ♡ とボンボンを揺さぶってくれる姿に勇気が出る。しかし肝心の両手は塞がっており、一体どうやって乳首を

いじめるのか……？

「あ〜〜ん……♡」

んばあっ♡ と、オレンジゆいちゃんは口を開けた。唾液たっぷりのてらてらした口内と、あつたかくてやわらかそうなベロがぬちやぬちや蠢いて……。

「んあぶっ♡♡」

一気に、キミの乳首へと吸い付いた！

「ちゅちゅちゅちゅちゅっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡ ちゅぼっ♡」

なんとオレンジゆいちゃんは、お口だけでキミの乳首をいじめ倒すつもりなのだ！

舌がぬめって、べちよべちよ♡ と胸元をツバだらけにする。んむちゅ♡ むちゅぼっ♡ わざとらしいくらい音を立てて、さつきまでじらされて敏感になった乳首を、逆に思いっきり舐めしやぶるのだ！

「ん〜ふふ♡ くふふ♡ ちゅま、んつぷ♡ ぶはあっ♡ ほらほら、まだまだいくよ〜？ まだ片っぱだもんね〜？ 次はあ……んべれえっ♡♡」

舌を這わせたまま、キミの胸を横切って、オレンジゆいちゃんはまだもう片っぱの乳首にむしゃぶりつく！

「かぶっ♡ ちゅちゅ♡ む♡ ちゅちゅるるんふっ♡ むちゅっ♡♡ ちゅーっ♡♡ ちゅふ、ふ♡」

ふり、ふり♡ ほんほん……♡

悶えるキミを励ますように、ボンボンが揺れる。がんばればがんばれ、負けるなファイト。オレンジゆいちゃんに焦らされて焦らされて、思いつてはいけない。グリーンゆいちゃんに焦らされて焦らされて、思いつきり責められる反動で、キミの脳みそがちかちかスパークする。

「んあ♡♡」

オレンジゆいちゃんは一旦口を離す。ねばついた糸がいくつも後を引いて、さんざん舐められた乳首が今度は唾液でひんやり感じる。べろっ♡ と楽しそうに舌なめずりするオレンジゆいちゃん。次の攻撃は……！

「あ〜、ん♡ — かぶっ♡♡」

歯だ！ かわいらしい前歯で、キミの乳首の先っぱをやさしく甘噛みしてしまった！

「かぶ、ちゅ♡ こりこり♡ くひひ♡ お〜いしい♡ キャンディよりやわつくくてえ、ちよっしよっばくくてえ♡ プロデューサーちゃんがイヤイヤ首振ってチョーかわい〜♡」

ちゅぼっ♡と口を離したかと思えば、もう片方の乳首もかぶり！

オレンジゆいちゃんは気まぐれに首を振り、君の乳首をたっぷりおいしく、激しく味わい尽くす。

「ほらほらあ、がーんばれっ♡ がーんばれえ♡ むちゅる♡ んふ♡ ふあいとっ、ふあいとだよーっ♡」

ふりふりっ♡ ファイト一発♡ ボンボンがリズムカルに揺れて、

キミの鼻先をいたずらにくすぐったり、耳をさわわしたり。キミは歯を食いしばって、汁気たつぷりのじゅるぬぼ乳首責めをがんばって耐える！ オレンジゆいちゃんの応援を無駄にしないために！

「んじゅぶうっ♡ かぶ、こり♡ くちぬち、んぶ♡ つはああ……♡ あ、おいしかった♡ プロデューサーちゃん、がんばってガマンしたねー！ 偉い偉い☆ゆいがナデナデしたげるね☆ 次もがんばろーねっ♡」

最後に、ちゅっ♡ とほっぺにキスして、オレンジゆいちゃんが離れる。キミはもう息も絶え絶えだ。乳首はジンジン、ちんぼはピクピク。触られてもないのに、もう射精しそう。

次もあるなんて……一体どうなってしまうのだろうか？

「くすん……プロデューサーちゃん、つらそう……。ごめんね？ 苦しいよね……？」

インディゴゆいちゃんは悲しみの唯ちゃん。繊細でちよつぱり泣き虫な、他の誰よりも悲しみの深い唯ちゃんなのだ。

けれどだからこそ、他のみんなの悲しみや苦しみに敏感な、ある意味一番優しい唯ちゃんとも言える。

さんざん責められて苦しそうなキミにも、インディゴゆいちゃんは優しく寄り添う。くすんくすん泣きながらキミの上体を起こしてあげ、その体を、後ろからぎゅっと抱き締めてあげるのだ……。

背中に伝わる体温。後ろから回る手が、キミの頭を優しくナデナデしてあげる。グリーンゆいちゃんとはまた違った、癒しの時間。思いやり……。

「ごめんね、プロデューサーちゃん。ゆいも乳首、いじめなきやだから……我慢してね……？」

すりっ……♡

インディゴゆいちゃんの手が、君の両乳首に降りる。

さわさわ、なでなで、ささささ……きゅっ……♡ ゆっくりまったり、両手の指で同時に責める、スタンダードな乳首いじめ。後ろから抱き締めながらというスタイルは変則的だが、これまでで最も優しい攻撃と言える。

だが……。

むにゅう……♡

背中に、やわらかい感触。ずり、ずりゅ……♡ と、上下に擦り上げられる。これは、生肌……インディゴゆいちゃんの、ナマおっぱい？ 彼女は上着どころか、ブラジャーすらも着けていない……。「ほんとはね、みんな悲しいの。すっごく、さびしいんだよ……？ どうしてかわかる？」

むにゅう……♡♡♡

おっぱいを押し付けながら、耳元に口を寄せ、インディゴゆいちゃんは吐息を交えてしっとり囁く。

「だって、プロデューサーちゃんすぐ負けちゃうんだもん。ゆいたちのいちわろが気持ちよすぎて、いつも勝てないんだもん……♡ 耐えてくれたら、もっとすんごいことできるのに♡ もっとも……と、みくん仲良しになれるのに……いつもおあずけなんだよ……？」

ずりゅ、むにゅう♡ くりっ、くりっくりっ♡

背中から密着状態。インディゴゆいちゃんはあつたかくてやわらかい。後ろから回り込んだ手が、キミの乳首をやさしく、しつこくしつこくいじめては、ちよつぱりベソかき気味のインディゴゆいちゃんの囁きが。

「ゆいたちのこと、助けると思ってた♡ ね？ 我慢しようね……？ ゆいたち、プロデューサーちゃんのこと大好きだから♡ ほんとは妊娠したいの♡ 七人みんな、プロデューサーちゃんの赤ちゃん産んで、ママになっちゃいたい……♡ だけどそれができなくて、とっても寂しいんだ……♡ ゆいも寂しい♡ おなかの下らへんがシクシクして、せつないよお、孕みたいよおってキュンキュン泣いてるの……♡ ぐすっ、くすん……そう考えたら、また泣いてきちゃったよう……♡」

ぼろぼろあつたかい涙が、キミの肩に滴り落ちる。甘いボイスの唯ちゃんは、涙も甘いのかもしれない。その綺麗な涙を、べろべろ舐め取ってあげられたら……。

すり、すりっ……♡ むにゅう……♡

巨乳が、ずーっと剥き出しの背中に押し付けられる。やわらかくて、しっとりしている。それに何より、背中をくすぐるコリコリしたふたつの突起。

「ほら、ね、感じて？ ゆいの乳首もボッキしてるんだ……♡ こすりつけると、きもちいね♡ プロデューサーちゃんもきもち？ ん、ふ……♡ んっ♡ やっぱ寂しい♡ もっと触れ合いたい……♡ もっとイヤらしいことしたい♡ くすんっ……♡ ゆいのおっぱいでえ、おちんぼ挟んであげたり♡ いっっぱいしゃぶってあげたり♡ みんな一斉に、お口でおちんぼの取り合いら……♡ 七人のおっぱいで、ぎゅっ♡♡♡ つておしくらまんじゅうしてあげたり……♡」

したい。そうしたい。ゆいちゃんハーレム堪能したくて仕方ない。勝てれば、自分ならそれができるのに。七人ともキミのことがほんとに大好きなのに。インディゴゆいちゃんのエロすぎる囁きが、キミの脳みそをじわじわ腐らせていく。

「最後には、七人みんなの恋人おまんこ、かわりばんこで、たっくさん愛情たっぷりナカダシして欲しい……♡ ゆいたちのむっちりお尻、一列に並べてさあ……♡ 右から順番に、ずっぶ♡ ぬぶう♡ どっぴゅー♡ つてしまくって欲しいの……♡ おまんこ食べ比べ♡ どのゆいがプロデューサーちゃんのちんぼにいちばんハマるまんこのかあ、ランキングしちゃったりして……♡ ねえ、プロデューサーちゃん♡ プロデューサーちゃんつたらあ……♡ ゆいたちいっぱいおまんこ締めるからあ……♡ みんな赤ちゃんの部屋開けて、プロデューサーちゃんのこと待ってるからあ……♡ ねえっばあ♡ さびしいよおう……♡」

したい、したい、したい♡ やりまくりたい♡ 七色の、全員キミのことを愛してる巨乳エロギャルを、キミだけのちんぼでみくんな食い散らかしたい♡ おまんこ比べして、全員に思い知らせてやりたい♡ 一人の強い雄に屈服すること♡ なんのかんの言っても、結局ナマイキなエロメスはプロデューサーの赤ちゃん孕むしかないってこと……♡

頭の中にもやがわかる。キミはもうほとんどおちんぼとおまんこのことしか考えられない。ぼやーっとしてきたキミを、インディゴゆいちゃんは健気に励ます。

「がんばろ？ がんばろうね？ ね、ゆいと約束♡ 守ってね、プロデューサーちゃん……♡ じゃないとゆい、また泣いちゃうんだ



から……♡」

うん、頑張る……。おバカみたいなお返事を、インディゴゆいちゃんは満足げに聞き届けて離れていく。

さあラストパートだ。ハーレムまであと少し！

「やつとゆいの出番……♡ プロデューサーちゃんごめんね♡ 待たせちゃったね♡ おわびに、ゆいがたろっふり♡ 愛情を込めて、乳首イジめてあげるね……♡」

パールゆいちゃんはアブない唯ちゃん。唯ちゃんズは全員キミのことが大好きだが、パールゆいちゃんの愛はちよつと危険な領域に入っているのだ。

そのパールゆいちゃんの最初の一手は……。

「んう、ぎゅーっ♡」

むにゅう♡

正面から、密着抱き着きた。

まさに恋人そのものといった感じで、パールゆいちゃんのほかほか体温とあったか甘い匂いが鼻腔をくすぐる。すぐ目の前には、にひにひ嬉しそうに笑うパールゆいちゃんのいたすら顔。幸せ♡ 嬉しい♡ と顔いっぱい表現して……。

「——ちゅっ♡」

ぶるつぶるの唇が、キミの唇に触れた。

「んむ、ちゅる♡ ちゅふ♡ ペロ出して……♡」

んれええあっ♡

わずかに開いた口に、パールゆいちゃんのヌルヌルあまあいペロが滑り込んでくる。さつきまで舐めていたであろうグレープの飴の味。キミの口の中をねろねろ舐め回し、唾液を交換して、んぐんぐ喉を鳴らす。

「あーっ！ キスしたーっ！」

「ちゅーは反則だっばー！」

ギャラリーゆいちゃんがズグがブーイングを飛ばすが、パールゆいちゃんはどこ吹く風。ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ 好き好き♡ 大好き♡ とラブラブちゅーを繰り返しながら、にまあ♡ と微笑む。

「んふふうっ……知らないもん……♡ 大好き同士が恋人ちゅーするのあ、当たり前だもん……♡」

むぎゅむぎゅ♡ と密着しながら、ぶちゅうっ♡ と唇を押し付ける。もう体のどこも離さない、というパールゆいちゃんならではの大きな愛がたっふりだ。

しかし……。

「でもね。ゆい、ちよつとヤなことあったんだあ……」

すっ……と、パールゆいちゃんの目が細まる。

「なんで、ゆい以外のゆいにコーンしてんの？」

唯ちゃんからは考えられない、低く冷たい声。

「おかしいっしょ。ちんぼガチボツキさせてさあ、乳首いじられてコーンして？ なんで？ なんでイキそうになってんの？ ゆいがイチパンだよ？ だってゆいはプロデューサーちゃんのこといっちばん大好きなんだもん。それって両想いってことっしょ？ なのに他のゆいに負けそうになってんのおかしくない？」

ちゅ♡ ちゅふ♡ とキスされながら、密着距離で詰め寄られる。

心なしかキスも乱暴になってるかも。んあもっ♡ がぶっ♡ と唇にかぶりついて、絶対に逃がしてあげないぞモードだ。

アブないスイツチ入ったパールゆいちゃんを、ギャラリーゆいちゃんズは「あちゃっ……♡」「出た出た♡」とニヤニヤ見守っている。

もちろんキミは助からない。

「だ・か・らあ……思い知らせてあげる。プロデューサーちゃんの乳首は、誰に何されるのがいっばんイイのか、わからせてあげるね……♡」

べろんっ♡

パールゆいちゃんはシャツをめぐりあげる。

シャツの下はノーブラで、ゆいちゃんのEカップぶるぶる巨乳が、だふんっ♡ とまろび出た。両方のピンク乳首は、どっちもピンピンに勃起して……。

「——こっちでも、キスしよっね♡」

っん、っんっ♡

キミの乳首とパールゆいちゃんの乳首が、両方ともラブラブキスをする。コリコリに張ったエロ乳首。熱くて充血して、コスる度に感じるそれが、キミの乳首と絡み合う。

「んっ、んふ♡ んう……きもち♡ きもちーね、プロデューサーちゃん……♡ 恋人同士の乳首キス、しあわせだねえ……んむっ♡」

また、キス。

パールゆいちゃんはキミの口をねぶりながら、胸元にはおっぱいを押し付け、乳首と乳首をこりっ♡ こりこりっ♡ やわらかさとカタさと気持ちよさ、ペロの熱さと味、ちよつびり乱暴で甘い愛の責め苦♡

「ちゅふ♡ んう……っふふ♡ ひひひ♡ ちゅっちゅっちゅっ♡ ちゅうううっ♡ んむ、ふう♡ ああ……へああ……♡

れぶちゅっ♡ んれっんれっんれっ♡ んひひ、えひ♡ おいし♡ すき♡ しあわせ♡ ゆいがイチパン♡ いちばんだよねえ♡

こりっこりこりっ♡ むぎゅっ、くにゅ♡ ぎゅっ、ぎゅっぎゅっぎゅっ♡

もちろん、くつつく以上は、ちんぼも圧迫されて。

口と乳首の気持ちよさ、いい匂い、それにこれまで積み重なったおあずけちんぼのイライラが、どうとう限界に達して……♡

「まふえろ♡ まけるお……っ♡ おもひひれ♡ らめになれ♡ ほら、ちゅ♡ ほあ、んちゅふ♡ んむっふっふちゅ、ほらほらああっ♡♡」

——びゅー♡

ぶびゅ♡ びゅっびゅっびゅっ♡ とぶとぶとぶう♡ びゅるっ、びゅ♡ びゅーっ、びゅー……っ♡♡

あつつうい汁が下半身をべえっとり汚して、キミは気持ちよさになんにも考えられなくなる。その間もキスは続いて、ギャラリーゆいちゃんズの「あーあ……♡」「はくあ……♡」「駄目だったか♡」などといった残念そうなクスクス笑いが聞こえてくる……。

「ああ……♡ ごめんねプロデューサーちゃん……♡ プロデューサーちゃんのせーえき、お外に出させちゃった♡ セツタイ妊娠できたのに、おなかにべえっとりくっつけて、ナカに入れさせてあげられなかったよう♡」

ニタニタ♡ くすくす♡ おへその下にこびりついた糊みたいなザーメンを塗り広げ、パールゆいちゃんは勝ち誇ったように笑うのだった。

「おわびのちゅー、してあげるね♡ んちゅ♡ んふ♡ちゅうう♡  
♡ いいんだよ♡ すき♡ 好きだよ♡他のみんなが愛想  
付かしても、ゆいだけはプロデューサーちゃんのこと見捨てない  
からね♡……♡」

しかし、負けは負け。キミは射精してしまった。  
レインボーゆいちゃん種付けハーレムの夢は泡と消えてしまっ  
た……。残念無念、また次回。

では、最後に何かあるのかって？  
それはねえ♡……もちろん、お・し・お・き♡

最後に、イエローゆいちゃんが登場する！

つまりオリジナルの唯ちゃん。そうそう、今こうして実況してる  
ゆいのことだよ♡

いや〜台本読むの大変だったぜ〜。むつか〜漢字たくさんあつ  
たし！ ま、楽しかったからいつか♡

「もー！ プロデューサーちゃんまた負けたー！」  
「ま、別にゆいはどーでもいーけどー」

「ふああ〜……ゆい眠くなってきちゃった〜……」  
「次があるよプロデューサーちゃん!! ふあいとっ!!」

「くすん……おまんこしてあげられなかった……」  
「ふふふ〜ゆいがイかせた〜ゆいがイかせた〜♡」

おほんっ、せーしゅくにせーしゅくに。  
われらがプロデューサーちゃんは、また負けてしまいましたっ。

これはどーしたことか！  
「たるんどるー!!」

「けしからん!!」

うむ！ で、あるからには、やっぱしプロデューサーちゃんのお  
ちんぼのコンジョーを叩き直してあげなければ、いかん！ の  
であるー！

「であるー!!」  
「こんじょー!!」

とゆーことで……はじめるっ！  
——わあっ♡♡

ゆいの合図で、レインボーゆいちゃんがプロデューサーちゃんに  
だーっしゅー！ がしゅと捕まえて、ぎゅーって抱き締めて、

身動き取れなくしちゃう！

ねーえ〜、プロデューサーちゃん？  
ゆい、かなしーなあ〜？

今日こそは勝つてくれると思ってたのに。ゆいたちのキツキツ  
おまんこ、プロデューサーちゃんの為に準備してたのに。七人とも、  
アブない日なのにい……♡

……あはっ♡ またちんぼポッキしてんじゃん。どーゆーことお  
〜？ こづくりこーび想像しちゃったのお？

でもだあ〜め♡ させてあげない♡ よわよわなプロデューサー  
ちゃんのかわいー赤ちゃんなんてえ、孕んであげないもーん♡

そのかわりい……。  
やっっちゃえっ♡

「えいっ！ おしおきーっ！」  
「だっさ。こんなもんでいいっしょ」

「ねむうい……すぐ終わらそー」  
「ガッツだプロデューサーちゃん」

「ぐす、ぐすっ……こんなのってないよう……」  
「好き♡ 好き♡ 好き♡ 好き♡ 好き♡」

みんないっぺんに、乳首いじって♡ 抱き着いて♡ おっぱい押  
し付けて♡ キスして♡ お耳しゃぶって♡

オールゆいちゃんアタックで、ダメにしちゃえ〜♡  
んふ、ひひひ♡ きもちい〜い？ あ、もう聞こえてない？ そっ  
かあ、もうダメかあ〜。

って、そんなわけあるかい☆  
もひとつ、一番ダメなどこあるよね〜？ 六人のゆいがまだ触つ  
てない、いっちなん大事などこ……。

そ♡ ちんぼ♡  
あーあー、こおんなにおつきくして……しよーがないプロデュー  
サーちゃんだよね〜。他の子が見たらゲンメツするよ〜？ ま、ゆ  
いはもう何度も見てるけど♡

………♡  
えいっ♡♡

おちんぼ、お手でできゅ〜っ♡ しこしこ♡ し〜しこ♡  
ひひ♡ はい、ちゅこちゅこちゅこーっ♡ おつき♡ ふと〜い♡  
これ入れたらどうなっちゃうんだろ〜♡ あっつう♡ しこしこし  
こしこっ♡ ほらほらほらっ！♡ ばーか♡ ばかちんぼっ♡ も

うダメなんでしょもうイクんでしょお♡ そんなだからゆいに勝て  
ないんだよだ♡ あ、ビクビクした♡ ねえみんなプロデューサー  
ちゃんイクつてえ♡ よわよわせーしまったドビュっっちゃうんだっ  
てえ〜♡

んじやもう終わらせちゃおっか♡ せ〜のおっ♡  
「射精して♡」「出しちゃえ♡」「負けちゃえ♡」「かわいい♡」「あ〜  
あ♡」「ぎこちくひ♡」「ふふ♡」「せーえきちようだい♡」「いいん  
だよ♡」「がんばれ♡」「好き♡」「だいすきだよ♡」「くふふ♡」「ばあ  
〜か♡」「イけ♡」「イけ♡」「イけ♡」「イけ♡」「イけ♡」「イけっ  
♡♡♡」「イけっ♡♡♡」

どびゅっっ！♡ ぶひゅるぶひゅる♡ プびゅっ！♡  
びゅちゅっ、びゅぶるるる〜っ！♡ びゅっびゅっびゅぐぐどど  
びゅ！♡ びゅ♡ びゅっ、びゅんっ♡

ぐびゅ、ボぶっ♡ ドブ、ぐぶ、ぐっ……ぶ♡  
とびゅ……とぶ……びゅぶ……♡  
とくん……とくん……♡♡

あはっ♡ 出た出たあ！ すっごく気持ちよさそ〜♡  
ねえねえ見てえ、もうべっつちよべちよ♡ あっつ♡ くさあい  
♡ 指でつまめるとかありえなくない？

………♡ ひひっ♡ そ・れ・じ・ゃ・あ——  
——いただきまあ〜す♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「じゅるっ♡ ずぞぞっ！♡」  
「んぐっ、んぶ♡ こくっこくっ……♡」

「む、ちゅ……♡ んえろえろえろ……つくん♡」  
「むああっ♡ あむっ、ぶー♡ んぶ、ふ♡♡」

「こぶ……こぶ……くちゅ……くちゅ……かぶ……♡」  
「れるっ、べろっ、ちゅ〜っ♡ ちゅぶ、れるお♡」  
こくっ、こくっ、んぶ♡ ん〜っ♡

う〜ん、やっぱ乳首イキでドビュったザーメンに限るよね♡ お  
いち〜♡  
みんなおつかれー！ よくできましたー☆

——ねえねえ、プロデューサーちゃん？  
あ、寝てる？ もしかして、おかしな夢でも見てるのかも……♡

うんうんうなされちゃって、ヘンなの☆  
……ねえ、でもね？

ゆいがプロデューサーちゃんのこと好きなのはホントだよ？ 赤ちゃん妊娠して、お嫁さんになりたいのもホントのホント……♡  
乳首くりくりされてえ、負けちゃうプロデューサーちゃんだけ  
どお……。そういうところが、かわいくって大好きなんだな……。♡

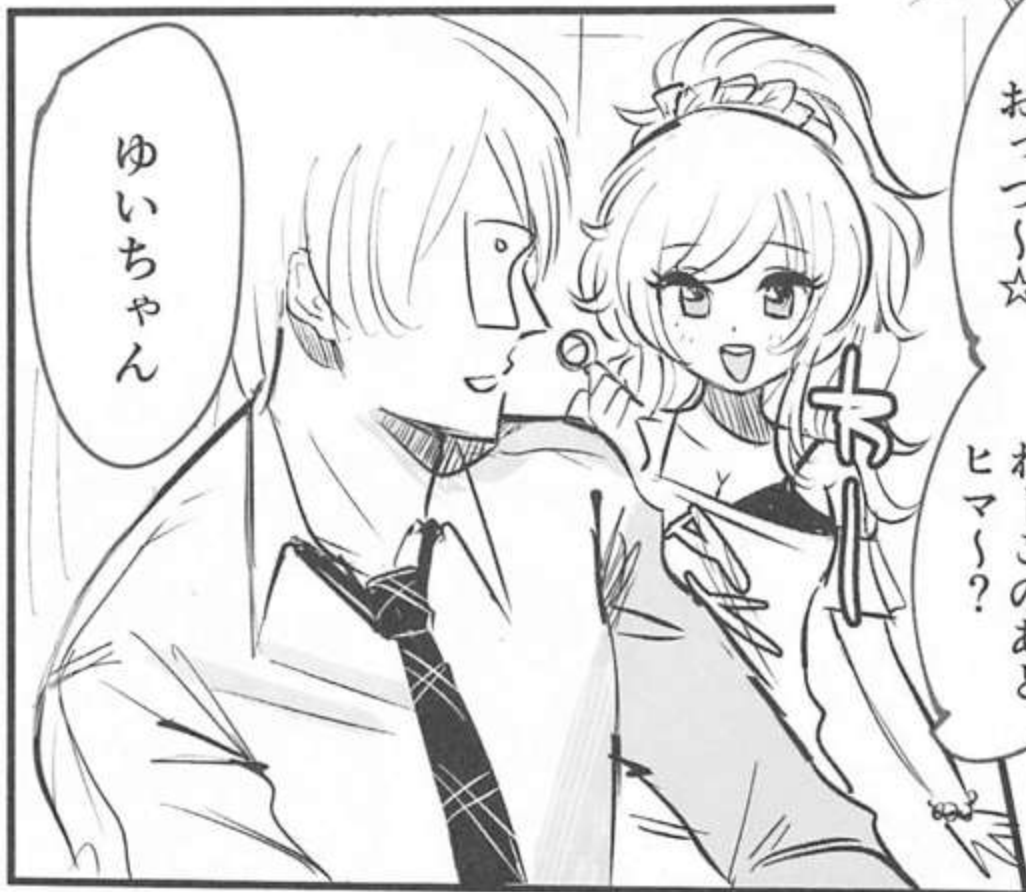
ん、ふああ……。ゆいも眠くなってきちゃったかも。

このまま添い寝しちゃお♡ いい夢見られるかも♡

今度こそ、勝とうね♡ プロデューサーちゃん……。♡

おわれ  
作 カクシバ

乳大規  
自目唯  
いを  
ち  
わ  
ん  
に  
び  
!!



ゆいちゃん

Pちゃん  
おっつ〜☆  
ねーこのあと  
ヒマ〜？



なにか  
相談事とかなら  
今聞くとよ

ちよっと  
資料作りが  
あつて忙しくて



かっいっいっい

違ふ〜!!  
なんか  
最近かまって  
くれないよね〜...

唯ちゃんに  
いじめられて  
みんなが  
元気が  
なると  
の段  
作 エニター  
ゴング



息抜きも大事だってば〜

でも仕事が〜…  
すかじ

ちよつと遊ぼ〜よ〜

えいっ

!?  
チヨッ



ふざっし  
唯ひゃん!!



チヨッ

Pちゃん最近頑張りすぎて  
ゆい心配だもん…

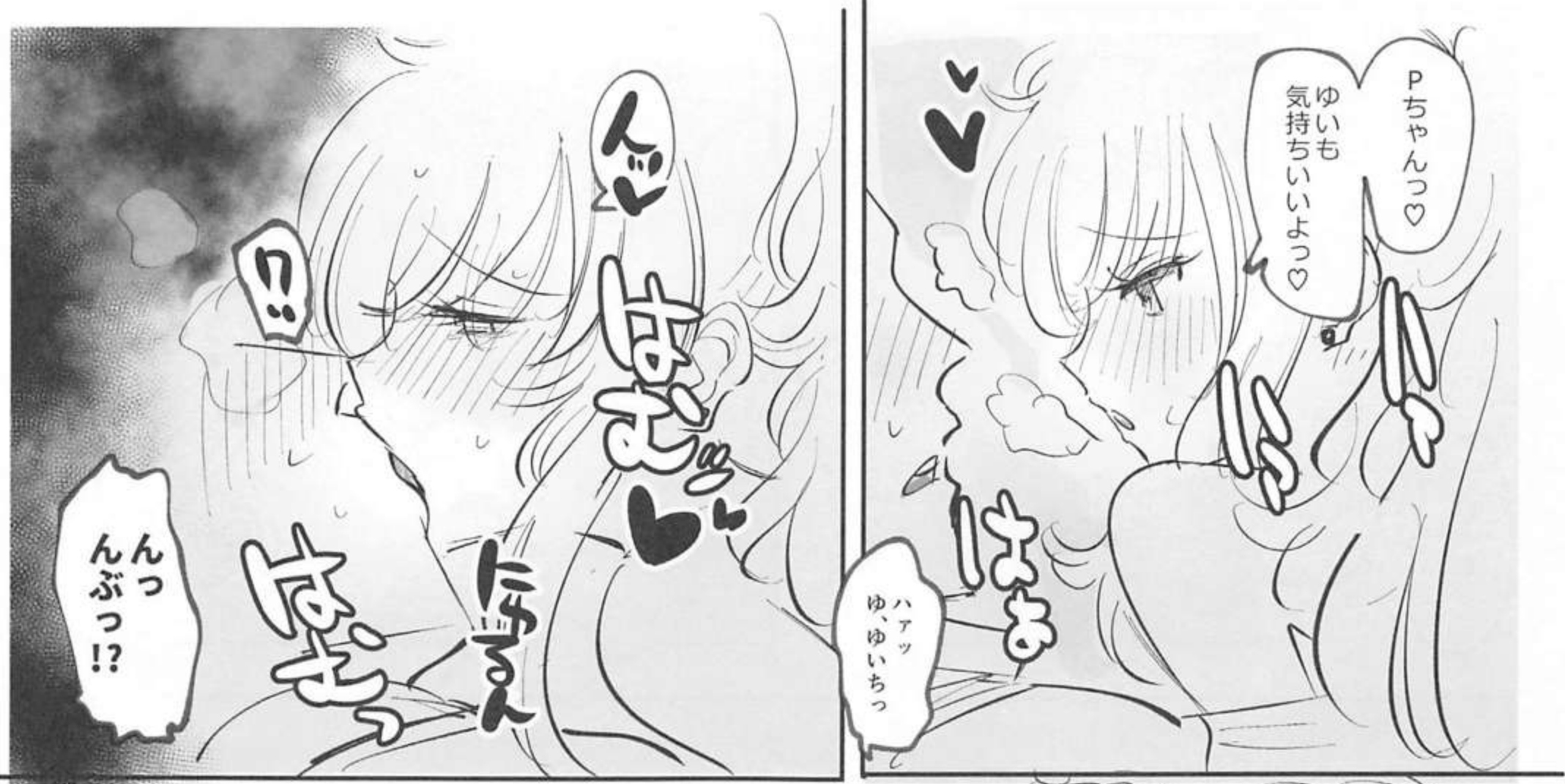
だから…

ゆいとちよつと休憩しよ?!

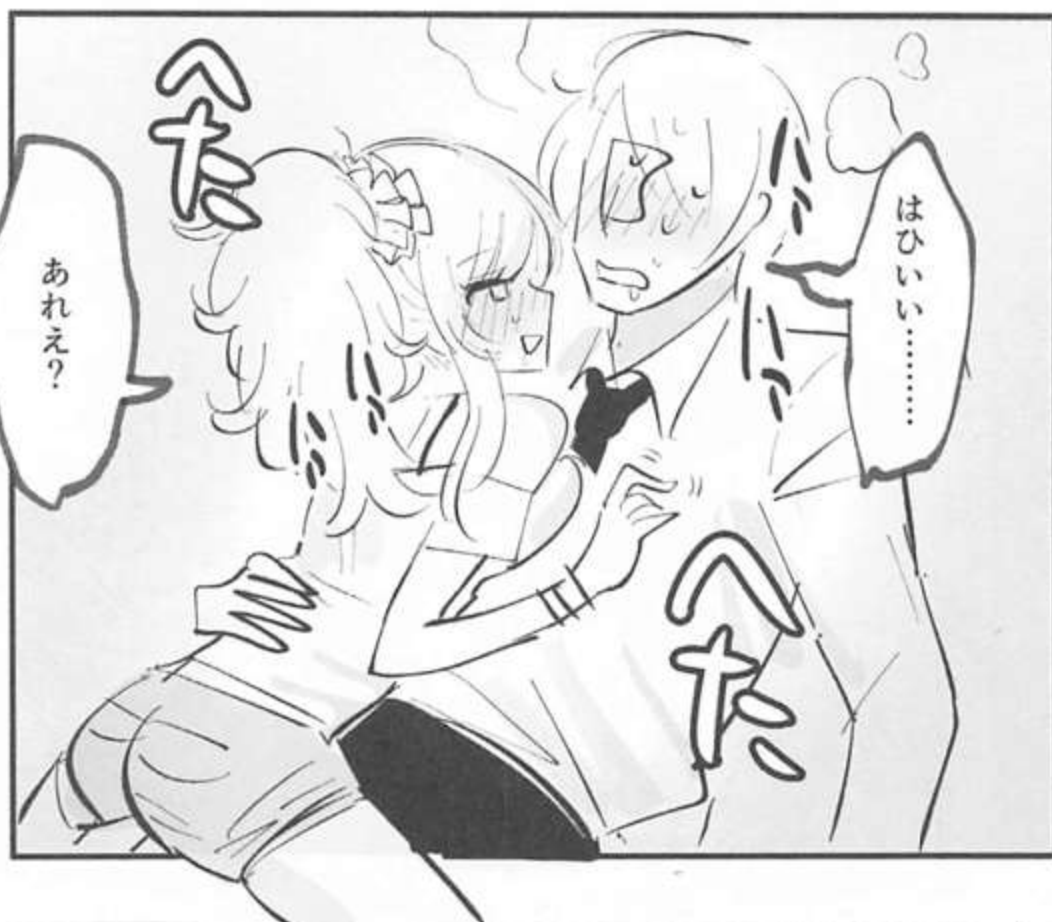
あぁっあぁっ…  
ちよつと…











ほんと?

唯ちゃん  
触るの  
上手すぎて……

もしかして  
Pちゃんも  
イっちゃった?♡



——気が付くと、  
奇妙な夢の中にいた。

じゃ〜ん♡

やっほ〜☆  
プロデューサーちゃん♪

いや、脈絡  
無さすぎ...

って、服も  
無え!?

Why!?

※背景も  
ないです

ココは  
唯に乳首で  
竹さねないと  
覚めない夢だ☆

……というワケで  
早速乳首いじるよ〜☆

ムダなテコーは  
やめるのだー

そりやまあ  
夢だからね〜

観念しなよ  
プロデューサー  
ちゃん♡

わきわき

そろ〜

男の乳首を  
触らすのは…

いや…  
流石に担当の  
アイドルに

スス…

良心か……

ゆ、ゆいちくびえっち……

描いたひと: **HAGEKIDA 5N49**

——とか言って  
期待してるくせに〜☆

うりうり〜♡

乳首  
ピンピン  
だぞ〜?

そっ、  
そんなこと…

あふん♡

キモW



さわさわ

スリスリ

男の人の乳首  
しっかり見るの  
初めてかも：☆

プロダンサーちゃんって  
割と体格は良いのに  
乳首は可愛いんだね♪

…何だか、ドキドキ  
してきたかも

ドキドキ



こうして  
つままれたり  
なめられたり…

ドキ  
ドキ



ん…？

何か今、変な声  
聞こえたよ？

さわさわ

びんびん



でも、男の人も  
乳首いじられて  
気持ちいいのかな…？

や、やめ…

んっふ

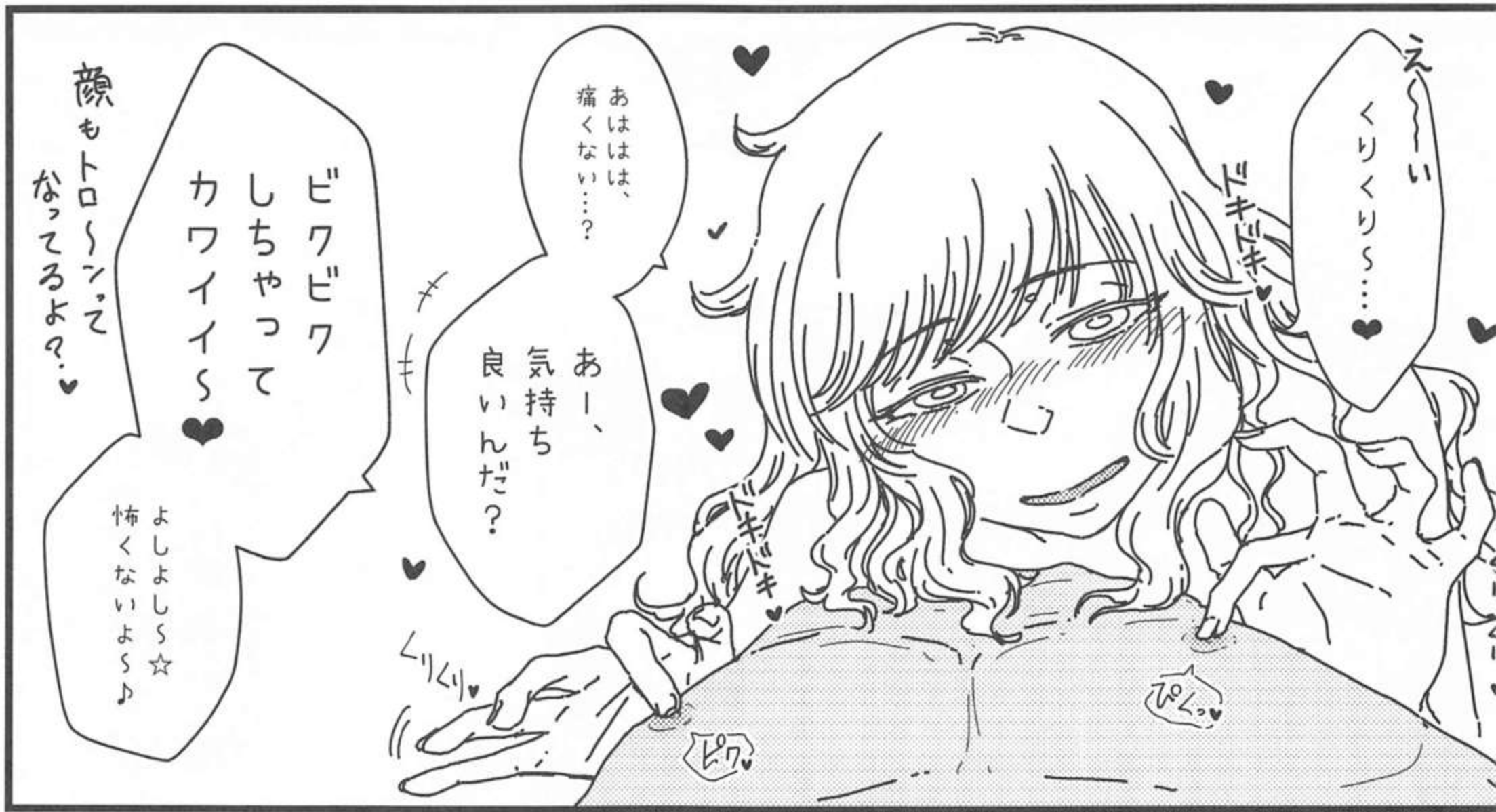
ドキ  
ドキ



…ねえ、  
寝転んでよ

もろっと  
触ったげる  
から…♪

びんびん



え〜い  
くりくり〜…♡

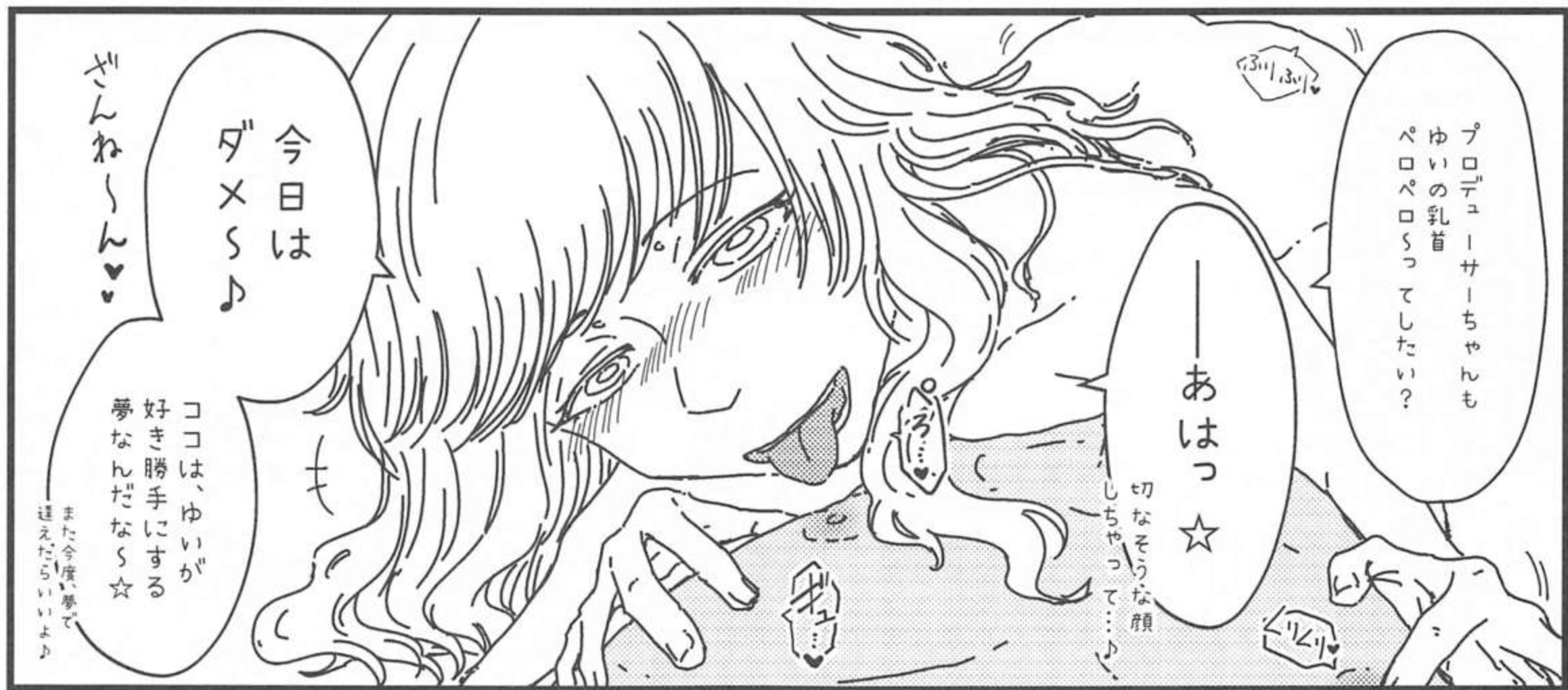
あははは、  
痛くない…？

あー、  
気持ち  
良いんだ？

ビクビク  
しちやって  
カワイイ♡

顔もトロ〜ンと  
なってるよ？♡

よしよし☆  
怖くないよ♪



プロデューサーちゃんも  
ゆいの乳首  
ペロペロ〜ってしたい？

—あはっ☆

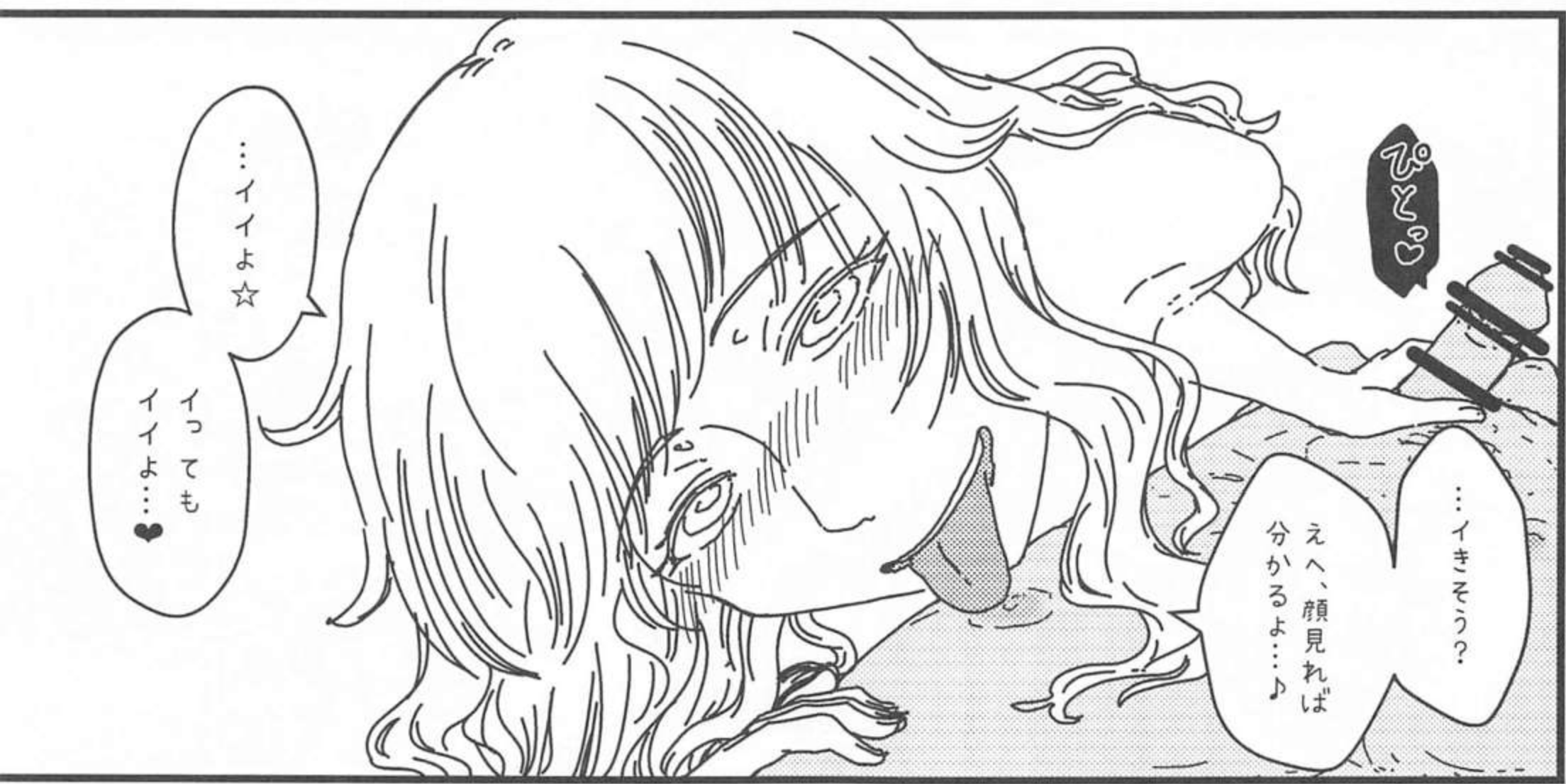
切なさの顔  
しちやって…♪

今日は  
ダメ♪

ざんね〜ん♡

ココは、ゆいが  
好き勝手にする  
夢なんだな☆

また今度、夢で  
運えたらいいよ



…イキそう？

えへ、顔見れば  
分かるよ…♪

…イイよ☆

イッても  
イイよ…♡

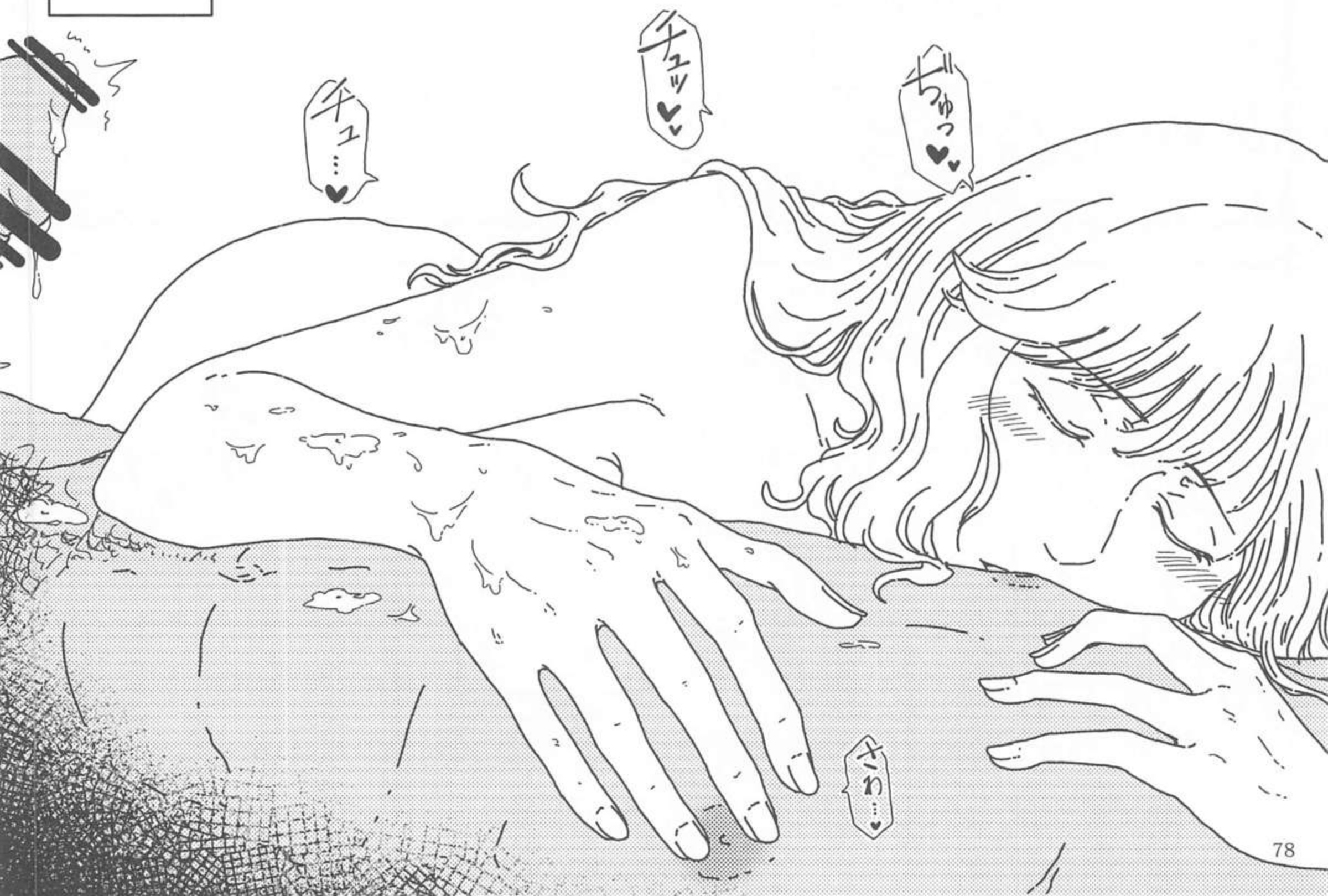
唯は――

唯は、俺が射精している間  
ずっと優しく、乳首を舐めて  
くれた。

唯の身体に  
精液が飛び散り、  
降りかかり…

唯はそれを  
気にもせず、  
俺はそれを  
ただ見ていた。

翌朝、起きると  
夢精していた。





あつは☆  
やっぱえっちつて  
きもちくてサイコー♡

プロデューサーちゃんもお…  
いっしょにきもちい♡い♡  
なろうね♡



唯ちゃんに  
甘サドえっち  
乳首いじり  
ながら搾汁  
T=いんじゃ!  
大月





プロデューサーちゃん…

ゆいのおまんごじゃなくて  
ちくびいじりの方で  
気持ちよくなっただっしょ？

…んんー？



ほら  
負けん  
負けん  
なあ♡

がんばれ♡  
ちくび♡  
がんばれ♡



おらおらあ♡  
だめでーす♡  
ちくびで♡  
感じちゃ♡  
だーめ♡



ダメだよ☆  
おまんこで♡  
感じて♡



もおおおお!!  
やっぱちくびで  
感じてるじゃーん!!



さいてー♡  
おまんこより  
ちくびで感じるんだ♡

こんなにおまんこ  
使ってるのに  
ちくび優先なんて  
いけないんだ♡♡

へんたいー♡  
へんたいちくび♡

チー♡  
よわよわちくび♡  
チー♡

ほろ♡ほろ♡  
イっちやえ♡  
ぞちくびで  
びゅっ♡しちやえ♡

このあとゆいは  
プロデューサーちゃんの  
よわよわごちくびを  
もっともっつと  
いじめちゃったのでした♡

こおるんな  
よわよわちくびの  
プロデューサーちゃん  
なんてえ...

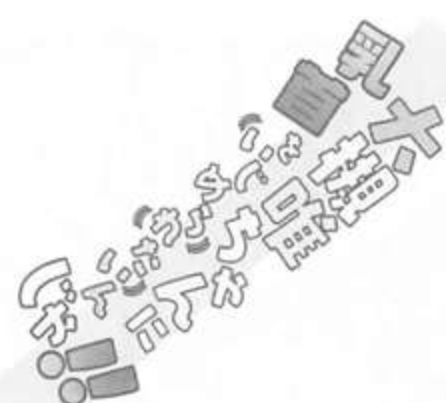


だいすき♡

Thank you!  
- Yui's nipple happy forever ♡



WANTED! YUI OHTSUKI to tease my nipples!!  
**AUTHOR's COMMENTS**



ごじゃるん

ちくじりは（男の胸を）飾るためじゃなく  
 ゆいんちゃんに吸われるために付いている～  
 ちくじりって何ですか？

やのかけ

本番行為が無くてもスケベなのって最高ですよ  
 わ

ヤマグチ

ゆいおねえちゃんにフスフス笑われながら乳首  
 証がされて情けなく射絡したい

お肉

こんにちわ！お肉です！なんと表紙と漫画で2  
 通りの唯ちゃん乳首責めが描けました！ラッ  
 キー！乳首を掻く唯を描く、そして俺はマスを  
 かく…なんつって！さようなら

いよ

いよです！お話しいただきありがとうございますごさ  
 いました！ニコニコしながら乳首責めしてくれる  
 唯ちゃんかわいいわ…唯ちゃんに乳首をいじ  
 られたあとはこっちも唯ちゃんの乳首をなめな  
 めしたい…唯ちゃんに頭撫でられながらいっ  
 ぱい吸うんだ……んっ……ちゅぽ…♡

光チン

女性の乳首責めるやつ大好きだけど女性に乳首  
 弄られるやつ全然触れて来なかったのが最初オ  
 レ描けねえよ専門外だもんって思ってたけど、  
 乳首弄るAV好きを拗らせて乳首モノのゲイポ  
 ルノで括く事もしばしばあったので何とか描け  
 ました。経験が活きた。

しおこしょう

乳首、感じるんではないよ？こんにちわ、しお  
 こしょうと申します。  
 好きな人の乳首を気持ちよくしたいって想いは  
 まさしく愛だと思ってるですよ。  
 読者の皆様には“ちくかん”を伝えたいです。

ゆにゆう

この度は素敵な合同誌の発行おめでとうございます！  
 楽しく参加出来ました！  
 少しでも貴方様の乳首にビビッと来ればうれし  
 いです！  
 ゆいちくびーむ！

三吉汐美

この度は大概唯ちゃんにちくびいじられたん  
 じゃ！合同にお話しありがとうございました！  
 唯ちゃんの母乳潤滑で乳首いじられたんじゃ  
 あ…

闇ケルちゃん

**ゆいちくはいいぞ**

ゴロウタメ

丁度自分も唯ちゃんに意地悪そうな顔で乳首捻  
 りあげられたい所でしたので、お話しいただけ  
 てとても嬉しかったです。皆さんも唯ちゃんの  
 為に乳首を開発しましょう。

マイク・O

大槻唯 TikTok 部をください。唯ちゃんがえっちな水着でダンス踊っているやつください。大槻唯 Iwara 部でもいいです

02

現世でどれほどの徳を積めば唯ちゃんに乳首をいじってもらえる来世に生まれることができるのでしょうか……

ピンスキー

お話しいただきありがとうございました。かわてより大槻唯ちゃんに乳首をいじってもらいたいという気持ちは強くあったため、このような素敵な企画に参加できたことを心より嬉しく存じております。

ユニティコング

唯ちゃんにいじってもらうことによりなんか元気が出て血液とかもサラサラになるらしいです唯ちゃんありがとう

ナシ・アジフ

今回は素晴らしいお話しをいただき、ありがとうございました。唯ちゃんの小悪魔っぽい可愛さを少しでも表現できていたでしょうか。血中大槻唯濃度が高まると乳首が敏感になる。オセアニアじゃ常識なんだよ。

ガサキ

合同の概要を伺った時、「オイついに来たぞオイ」とテンションがかなり上がりワクワクが乳頭に集まって弾けました。かなり自分らしい文章を書けたと思っております。ありがとうございました。顔面騎乗で乳首責めされながら自分でチンチン揺くシチュも好きです。

むらいとよ

初めて乳首わふられてからその後すぐに私の乳首スーパースペシャルになったもの

廃屋カーネル

俺は…大槻唯になりたかったのかもしれない……

カクシバ

お声がけいただきありがとうございます。たくさん唯ちゃんに乳首をいじられたいという強い『心』があれば、唯ちゃんは増えるぞ。次は勝とう！

ハゲインド

普段描いている絵のせいで「尊精フェチなのでは？」と言われるますが、そんな性癖はありません。ただ、尊精するほどエッチな目に遭いたい、とは思っています。いわば、尊精したいのではなく、尊精させられない。

大作

大槻唯ちゃんに乳首をいじってもらいたいんじゃ！！（テレビ千鳥っぽく読んでください）この度はお手にとっていただきありがとうございました。「籠の爪」是非是非体験してみてね。



奥付 『大槻唯ちゃんに乳首をいじめてもらいたいんじゃ！！』

発行者 : 大作

編集: だんちょ

サークル: 大作のいるサークル

Twitter: DaisakuKimutaku

発行日 : 2020年5月2日

PixivID: 4213608

印刷 : 株式会社栄光

SkypeID: ab4. key\_m\_tac

メール : yury\_and\_lily@yahoo. co. jp



THE IDOLM@STER CINEDELLERA GIRLS  
UNOFFICIAL FANBOOK.  
WANTED! YUI OHTSUKI to tease my nipples!!

DAISAKU NO IRU CIRCLE Presents.  
2020 spring issue